

Sun Java™ System Portal Server リリースノート (Microsoft Windows 版)

バージョン 6 2005Q4

Part No. 819-5868

このリリースノートには、Sun Java System Portal Server 6 2005Q4 (Microsoft Windows 版) のリリース時点で判明している重要な情報が含まれています。ここでは、既知の問題点と制限事項、およびその他の情報が説明されています。Portal Server 6 をお使いになる前に、このリリースノートをお読みください。

このリリースノートの最新バージョンは、<http://docs.sun.com/app/docs/prod/entsys.05q4#hic> の Sun Java System マニュアル Web サイトで参照できます。ソフトウェアのインストールおよび設定前だけでなく、以後も定期的にこの Web サイトをチェックして、最新版のリリースノートやマニュアルをご覧ください。

このリリースノートは、次の項目で構成されています。

- [リリースノートの改訂履歴](#)
- [Portal Server 6 2005Q4 について](#)
- [このリリースで修正されるバグ](#)
- [重要な情報](#)
- [既知の問題と制限](#)
- [再配布可能ファイル](#)
- [問題の報告とフィードバックの方法](#)
- [追加情報](#)

このリリースノートで参照されるサードパーティーの URL で、詳細な関連情報を得ることができます。

注 Sun は、このマニュアルに記載されているサードパーティー Web サイトの利用について責任を負いません。Sun は、このようなサイトまたはリソースで得られるあらゆるコンテンツ、広告、製品、およびその他素材を保証するものではなく、責任または義務を負いません。Sun は、このようなサイトまたはリソースで得られるあらゆるコンテンツ、製品、またはサービスによって生じる、または生じたと主張される、または使用に関連して生じる、または信頼することによって生じる、いかなる損害または損失についても責任または義務を負いません。

リリースノートの改訂履歴

表 1 改訂履歴

日付	更新内容
2006年2月	商用リリース
2005年11月	ベータリリース

Portal Server 6 2005Q4 について

Sun Java System Portal Server 6 2005Q4 は、エンドユーザーがリソースとアプリケーションにアクセスするためのポータルデスクトップです。また、Portal Server ソフトウェアは、ポータルデスクトップからイントラネットコンテンツの整理とアクセスを可能にする検索エンジンインフラストラクチャーも提供します。さらに今回のリリースでは、通信チャンネルが Portal Server ソフトウェアとともにインストールされます。通信チャンネルは、メールチャンネル、カレンダーチャンネル、アドレス帳チャンネル、Instant Messaging チャンネルで構成されます。

また Portal Server は、リモートユーザーがインターネットを經由して組織のネットワークとそのサービスに安全にアクセスできるようにする、Secure Remote Access もサポートします。また、このリリースは、組織に対して、従業員、ビジネスパートナー、一般の人々など、あらゆる対象読者向けにコンテンツ、アプリケーション、データへのアクセスを提供するセキュアなインターネットポータルを提供します。

Portal Server 6 2005Q4 の新機能

次に示す機能は Secure Remote Access の新機能であり、『Sun Java System Portal Server Secure Remote Access 6 2005Q4 管理ガイド』には記載されていません。

- Proxylet で HTTPS をサポートします。この実装により、次のような変更があります。
 - 復号化はクライアントサーバーで実行されます。
 - SSL モードで稼働する宛先サーバーにアクセスできます。
 - クライアント証明書を宛先サーバーに直接示すことができます。
 - 基本認証シングルサインオンは、ゲートウェイで使用できなくなります (ゲートウェイは SSO 情報を http ヘッダーに挿入できない)。
 - URL ベースのアクセス制御はサポートされず、ホストベースのアクセス制御だけがサポートされます。

- GW 手前の外部アクセラレータと外部リバースプロキシは現在サポートされていません。
- このサポートは、HTTPS で動作する Portal Server による Proxylet に対するものではありません。
- Proxylet Java アプレットには、PAC ファイルのコンテンツを決定するルールが追加されました。すべての HTTP 要求は Proxylet に送られます。管理者は Proxylet のルールにより、プロトコル、ホスト、またはドメインへのポートに基づいてマッピングを指定できます。
たとえば、すべての FTP トラフィックが Netlet を経由したり、すべての HTTP トラフィックが Proxylet を経由するように経路ルールを作成することが可能です。
- Access Manager 管理コンソールを使用することにより、Portal Server 管理者は、Netlet を Java Web Start によって起動するのか、または Netlet アプレットによって起動するのかを選択できます。管理者が Java Web Start を選択した場合は、ユーザーがデスクトップの Netlet アイコンをクリックすると、ブラウザが起動して Netlet が実行されます。Java Web Start を使用する場合は、一度配備すれば、Netlet を再びダウンロードする必要がなくなります。

ハードウェアおよびソフトウェアの要件

次に、Portal Server のこのリリースに適するハードウェアおよびソフトウェアの要件を示します。

表 2 ハードウェアおよびソフトウェアの要件

コンポーネント	プラットフォームの要件
サポートされるプラットフォーム	Windows 2000、Windows 2003、Windows XP
オペレーティングシステム	Windows 2000 Advanced Server SP4 Windows 2003 Enterprise Server Windows XP SP1 および SP2
RAM	1G バイト
ディスクの空き容量	1G バイト

ソフトウェアの要件については、<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-0815?l=ja> にある『Sun Java Enterprise System リリースノート』を参照してください。

デフォルトパスとファイル名

このリリースノートで使用するデフォルトパスとファイル名の一覧を次の表に示します。

表 3 このリリースノートで使用するデフォルトパスとファイル名

項目	説明
PortalServer-base	Portal Server のベースインストールディレクトリを表します。Portal Server 2005Q1 のデフォルトベースインストールおよび製品ディレクトリは、使用するプラットフォームによって異なります。C:\%Sun たとえば、インストールルートが C:\%Sun (デフォルト) の場合は、C:\%Sun\%PortalServer に Portal Server がインストールされます。
AccessManager-base	Access Manager のベースインストールディレクトリを表します。Access Manager 2005Q2 のデフォルトベースインストールおよび製品ディレクトリは、使用するプラットフォームによって異なります。 C:\%Sun\%AccessManager
DirectoryServer-base	Sun Java System Directory Server のベースインストールディレクトリを表します。具体的なパス名については、製品マニュアルを参照してください。
ApplicationServer-base	Sun Java System Application Server のベースインストールディレクトリを表します。具体的なパス名については、製品マニュアルを参照してください。
WebServer-base	Sun Java System Web Server のベースインストールディレクトリを表します。具体的なパス名については、製品マニュアルを参照してください。

インストール後の設定

この節は次の項目で構成されています。

- [psconfig バッチファイル](#)
- [Portal Server と Secure Remote Access の設定用チェックリスト](#)
- [ゲートウェイの設定用チェックリスト](#)
- [Netlet プロキシの設定用チェックリスト](#)
- [Rewriter プロキシの設定用チェックリスト](#)
- [対話型モードでの Portal Server の設定](#)
- [サイレントモードでの Portal Server の設定](#)
- [Portal Server のインストール後のタスク](#)

psconfig バッチファイル

「あとで設定」オプションを指定し、Sun Java Enterprise System インストーラによって Portal Server をインストールした場合は、psconfig スクリプトを使用して Portal Server コンポーネント製品を設定します。この次に示すチェックリストに、Portal Server コンポーネント製品の設定で使用するパラメータを示します。

psconfig を実行するには、次の手順に従います。

1. コマンドプロンプトで、psconfig バッチファイルが格納されたディレクトリに移動します。
`cd PortalServer-base/config`
2. 設定は、対話型モードまたはサイレントモードで実行できます。
 - 対話型モードで設定するには、「psconfig」と入力して psconfig バッチファイルを実行し、その後、設定に関する質問に対して適切な答えを入力し設定作業を進めます。
 「対話型モードでの Portal Server の設定」を参照してください。
 - サンプルのサイレントファイルを使用して設定するには、次のように入力して psconfig バッチファイルを実行します。
`psconfig -s`
 「サイレントモードでの Portal Server の設定」を参照してください。

最小インストールを実行した場合は、psconfig スクリプトを使用して、インストールした Portal Server を設定する必要があります。次のチェックリストに、インストール後の設定で必要になる値を示します。使用する値は、実行するインストール方法に応じて異なります。

チェックリストは次のように構成されています。

- コンポーネント
- ベースディレクトリ
- 設定モード
- 配備情報
- Web コンテナ情報
 - Sun Java Web Server
 - Sun Java Application Server 8.1
- Portal Server 情報
- Identity Server 情報
- Secure Remote Access 情報
 - Gateway
 - Netlet プロキシ

- Rewriter プロキシ

Portal Server と Secure Remote Access の設定用チェックリスト

表 4 では、インストール後の設定作業で必要になる値すべての一覧を 3 列にまとめています。使用する値は、実行するインストール方法に応じて異なります。

注 Portal Server 2005Q1 のデフォルトベースインストールおよび製品ディレクトリは、使用するプラットフォームによって異なります。

C:\Sun\PortalServer

たとえば、インストールディレクトリが C:\Sun (デフォルト) の場合は、C:\Sun\PortalServer に Portal Server がインストールされます。

注 パラメータがコンテナに適用されない場合は、この表には記載されていません。

表 4 Portal Server の設定用チェックリスト

パラメータ	デフォルト値	説明
BASEDIR		
BASEDIR		Java Enterprise System インストーラを使用して Portal Server ソフトウェアがインストールされるベースディレクトリです。
Sun Java System Portal Server コンフィギュレータのコンポーネントがインストールされているディレクトリ		ベースディレクトリは使用するプラットフォームによって異なります。 たとえば、インストールディレクトリが C:\Sun (デフォルト) の場合は、次の場所に Portal Server がインストールされます。
		C:\Sun\PortalServer

表 4 Portal Server の設定用チェックリスト (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
PS_CONFIGURATION_MODE	configure	次のような値をとります。 configure - Portal Server のコンポーネントを設定します。 scrubds - Directory Server から Portal Server のコンポーネントエントリを削除します。 unconfigurewithoutscrubds - Directory Server から Portal Server のコンポーネントエントリを削除せずに、それらのコンポーネントの設定を解除します。 unconfigurewithscrubds - Portal Server の設定を解除し、Directory Server からコンポーネントエントリも削除します。
配備情報		
PS_DEPLOY_TYPE	SUNONE8	次のような値をとります。 IWS = Sun Java System Web Server SUNONE8 = Sun Java System Application Server 8.1
Portal Server が配備される Web コンテナです。Portal Server は次の製品に配備可能です。 Sun Java System Web Server Sun Java System Application Server 8.1		
Web コンテナ情報 Sun Java System Web Server		
PS_DEPLOY_DIR	C:\Sun\WebServer	Sun Java System Web Server がインストールされているディレクトリです。
PS_DEPLOY_INSTANCE	myportalbox.mydomain.com	Portal Server で使用する Web サーバーインスタンスです。 注: インスタンス名にはスペースを入れないでください。
PS_DEPLOY_DOCROOT	C:\Sun\WebServer\docs	スタティックページを保持する Web Server ディレクトリです。
PS_DEPLOY_ADMIN	admin	管理者ユーザー ID です。

表 4 Portal Server の設定用チェックリスト (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
PS_DEPLOY_ADMIN_PROTOCOL	http	管理サーバーのプロトコルです。
PS_DEPLOY_ADMIN_HOST	myportalbox.mydomain.com	管理サーバーのホスト名です。
PS_DEPLOY_ADMIN_PORT	8888	管理サーバーのポート番号です。
PS_DEPLOY_JDK_DIR		Web コンテナが使用中の JDK ディレクトリです。
Web コンテナ情報 Sun Java System Application Server 8.1		
PS_DEPLOY_DIR	C:\%Sun%\ApplicationServer	Sun Java System Application Server 8.1 がインストールされているディレクトリです。
PS_DEPLOY_DOMAIN	domain1	Sun Java System Application Server ドメインには、インスタンスのセットがあります。指定されるドメインは、Portal Server が使用するインスタンスを含みます。 このドメインは、あらかじめ設定されている必要があります。
PS_DEPLOY_INSTANCE_DIR	C:\%Sun%\ApplicationServer\domains\domain1	指定されたドメインのフルパスで、Portal Server 用に指定されます。
PS_DEPLOY_INSTANCE	server	Portal Server の配備先となる Sun Java System Application Server インスタンスの名前です。 このインスタンスは、あらかじめ設定されている必要があります。インスタンス名にはスペースを入れないでください。
PS_DEPLOY_DOCROOT	C:\%Sun%\ApplicationServer\domains\domain1\docroot	スタティックページを保持する Application Server ディレクトリです。
PS_DEPLOY_ADMIN	admin	管理者ユーザー ID です。
PS_DEPLOY_ADMIN_PROTOCOL	https	管理サーバーのプロトコルです。
PS_DEPLOY_ADMIN_HOST	myportalbox.mydomain.com	管理サーバーのホスト名です。
PS_DEPLOY_ADMIN_PORT	4849	管理サーバーのポート番号です。

表 4 Portal Server の設定用チェックリスト (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
PS_DEPLOY_JDK_DIR		Web コンテナが使用している JDK ディレクトリです。
Portal Server 情報		
PS_DEPLOY_URI	/portal	URI は、Web サーバーまたはアプリケーションサーバー上の空間であり、Portal Server が使用します。 配備 URI の値の先頭にはスラッシュを置き、かつスラッシュを1つだけ使用する必要があります。ただし、配備 URI を「/」だけにすることはできません。
PS_LOAD_BALANCER_URL	http://myportalbox.mydomain.com:80/portal	ロードバランサ URL を何も使用していない場合は、Portal Server URL を使用します。 <i>http://fully-qualified-domain:port/portal-deploy_uri</i>
Portal Server インスタンスを制御するロードバランサ		たとえば、 <i>http://myportalbox.mydomain.com:80/portal</i> とします。
PS_PROTOCOL	http	Portal Server へのアクセス時に使用するプロトコルです。値として http や https を指定します。
PS_HOST		Portal Server の完全修飾名
PS_PORT		Portal Server へのアクセスで使用するポート番号です。
Identity Server 情報		
PS_IDSAME_ADMIN_PASSWORD		Sun Java System Identity Server ソフトウェアのインストール時に選択したトップレベルの管理者 (amadmin) パスワードです。
Administrator (amadmin) Password		
PS_IDSAME_LDAPUSER_PASSWORD		Sun Java System Identity Server のインストール時に選択した内部 LDAP 認証ユーザーパスワードです。
Internal LDAP Authentication User Password		
PS_DS_DIRMGR_DN	cn=Directory Manager	Sun Java System Directory Server のインストール時に選択した Directory Manager DN です。
Directory Manager DN		

表 4 Portal Server の設定用チェックリスト (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
PS_DS_DIRMGR_PASSWORD Directory Manager Password		Sun Java System Directory Server のインストール時に選択した Directory Manager パスワードです。
PS_DEPLOY_ADMIN_PASSWORD D 配備管理者パスワード		Web コンテナの管理者パスワードです。
Secure Remote Access 情報 (Secure Remote Access サポートを設定する場合)		
SRA_GW_PROTOCOL Gateway Protocol	https	ゲートウェイが使用するプロトコルです。ゲートウェイは、Secure Socket Layer (SSL) を使用して通信します。
SRA_GW_PORT Gateway Port	443	ゲートウェイが待機するポートです。
SRA_GATEWAY_PROFILE Gateway Profile Name	default	ゲートウェイプロファイルには、ゲートウェイが待機するポート、SSL オプション、プロキシオプションなど、ゲートウェイの設定に関連するすべての情報が保存されています。ゲートウェイ管理コンソールで複数のプロファイルを作成し、ゲートウェイの別のインスタンスと別のプロファイルを関連付けることができます。 『Sun Java System Portal Server Secure Remote Access 6 2005Q1 管理ガイド』の「ゲートウェイプロファイルの作成」を参照してください。
SRA_SERVER_DOMAIN	<i>portal-server-domain-name</i>	Portal Server がインストールされているマシンのドメイン名です。
SRA_GW_DOMAIN Gateway Domain	<i>gateway-domain-name</i>	ゲートウェイマシンのドメイン名です。
SRA_IDSAME_ADMIN_PASSWORD RD Administrator (amadmin) Password		Sun Java System Identity Server ソフトウェアのインストール時に選択したトップレベルの管理者 (amadmin) パスワードです。

表 4 Portal Server の設定用チェックリスト (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
SRA_IDSAME_LDAPUSER_PASS WORD Internal LDAP Authentication User Password		Sun Java System Identity Server のインストール時に選択した内部 LDAP 認証ユーザーパスワードです。
SRA_DS_DIRMGT_DN Directory Manager DN	cn=Directory Manager	Sun Java System Directory Server のインストール時に選択した Directory Manager DN です。
SRA_DS_DIRMGR_PASSWORD Directory Manager Password		Sun Java System Directory Server のインストール時に選択した Directory Manager パスワードです。
SRA_DEPLOY_ADMIN_PASSWO RD 配備管理者パスワード		Web コンテナの管理者パスワードです。
SRA_LOG_USER_PASSWORD Gateway Logging User Password		これにより、非ルートアクセス権のある管理者は、ゲートウェイのログファイルを見ることができます。

ゲートウェイの設定用チェックリスト

表 5 は、3 列で構成されるゲートウェイのインストール用チェックリストの表です。

表 5 ゲートウェイの設定用チェックリスト

パラメータ	デフォルト値	説明
GW_PROTOCOL	https	ゲートウェイが使用するプロトコルです。ゲートウェイは、通常 Secure Socket Layer (SSL) を使用して通信します。
GW_HOST	mygwbox.mydomain.com	ゲートウェイがインストールされているマシンのホスト名です。
GW_PORT	443	ゲートウェイマシンが待機するポートです。
GW_IP	gw-host-ip-address	IP アドレスは、Sun Java System Identity Server ではなく、ゲートウェイがインストールされているマシンのアドレスにしてください。

表 5 ゲートウェイの設定用チェックリスト (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
GW_GATEWAY_PROFILE Gateway Profile Name	default	ゲートウェイプロファイルには、ゲートウェイが待機するポート、SSL オプション、プロキシオプションなど、ゲートウェイの設定に関連するすべての情報が保存されています。ゲートウェイ管理コンソールで複数のプロファイルを作成し、ゲートウェイの別のインスタンスと別のプロファイルを関連付けることができます。『Sun Java System Portal Server Secure Remote Access 6 2005Q1 管理ガイド』の「ゲートウェイプロファイルの作成」を参照してください。
GW_LOAD_BALANCER_URL Load balancer controlling Portal Server Instances.		ロードバランサ URL を何も使用していない場合は、Portal Server URL を使用します。 <code>http://fully-qualified-domain:port/portal-deploy_uri</code> たとえば、 <code>http://myportalbox.mydomain.com:80/portal</code> とします。
GW_CERT_INFO		証明書情報は、次の形式で指定します。 "CN=\$GW_HOST、 L= 市区町村名、 ST= 都道府県名、 C= 国名を示す 2 文字コード、 O= 所属組織名、 OU= 所属部門名 " たとえば、 「CN=\$GW_HOST,L=SantaClara,ST=California,C=us,O=Portal,OU=Sun」 のようになります。
GW_SRA_LOG_USER_PASSWORD D Gateway Logging User Password		これにより、非ルートアクセス権のある管理者は、ゲートウェイのログファイルを見ることができます。
GW_CERT_DB_PASSWORD 証明書データベースパスワード 証明書情報		任意のパスワードを選択できます。

表 5 ゲートウェイの設定用チェックリスト (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
組織 (O)	MyOrganization	所属組織名。
部門 (OU)	MyDivision	所属部門名。
市区町村 (L)	MyCity	市区町村名。
都道府県 (ST)	MyState	都道府県名。
2 文字の国コード (C)	us	国名を示す 2 文字コード。
証明書データベースパスワード パスワードの再入力		任意のパスワードを選択できます。 確認のためパスワードを再入力します。

Netlet プロキシの設定用チェックリスト

表 6 は、3 列で構成される Netlet プロキシのインストール用チェックリストです。最初の列にはパラメータが示されています。2 列目はデフォルト値です。3 列目では、パラメータについて説明しています。

表 6 Netlet プロキシの設定用チェックリスト

パラメータ	デフォルト値	説明
NLP_PROTOCOL	https	Netlet プロキシが使用するプロトコルです。Netlet プロキシは、通常 Secure Socket Layer (SSL) を使用して通信します。
NLP_HOST	myportalbox.mydomain.com	Netlet プロキシがインストールされているマシンのホスト名です。
NLP_PORT	10555	Netlet プロキシが待機するポートです。
NLP_IP	host-ip-address	IP アドレスは、Sun Java System Identity Server ではなく、Netlet プロキシがインストールされているマシンのアドレスにしてください。
NLP_GATEWAY_PROFILE Gateway Profile Name	default	Portal Server または Secure Remote Access サポートをインストールしたときに指定したのと同じプロファイル名を指定します。 詳細については、『Sun Java System Portal Server Secure Remote Access 6 2005Q1 管理ガイド』の「ゲートウェイプロファイルの作成」を参照してください。

表 6 Netlet プロキシの設定用チェックリスト (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
NLP_LOAD_BALANCER_URL Load balancer controlling Portal Server Instances.		ロードバランサ URL を何も使用していない場合は、Portal Server URL を使用しません。 <code>http://fully-qualified-domain:port/portal-deploy-uri</code> たとえば、 <code>http://myportalbox.mydomain.com:80/portal</code> とします。
NLP_CERT_INFO		証明書情報は、「CN=\$GW_HOST,L=<市区町村名>,ST=<都道府県名>,C=<国名を示す2文字コード>,O=<所属組織名>,OU=<所属部門名>」の形式で指定してください。 たとえば、 「CN=\$GW_HOST,L=SantaClara,ST=California,C=us,O=Portal,OU=Sun」のようになります。
NLP_SRA_LOG_USER_PASSWORD Gateway Logging User Password		これにより、非ルートアクセス権のある管理者は、ゲートウェイのログファイルを見ることができます。

Rewriter プロキシの設定用チェックリスト

表 7 は、3 列で構成される Rewriter プロキシのインストール用チェックリストです。最初の列にはパラメータが示されています。2 列目はデフォルト値です。3 列目では、パラメータについて説明しています。

表 7 Rewriter プロキシのチェックリスト

パラメータ	デフォルト値	説明
RWP_PROTOCOL	https	Rewriter プロキシが使用するプロトコルです。Rewriter プロキシは、通常 Secure Socket Layer (SSL) を使用して通信します。
RWP_HOST	myportalbox.mydomain.com	Rewriter プロキシがインストールされているマシンのホスト名です。
RWP_PORT	10443	Rewriter プロキシが待機するポートです。

表 7 Rewriter プロキシのチェックリスト (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
RWP_IP	host-ip-address	IP アドレスは、Sun Java System Identity Server ではなく、Rewriter プロキシがインストールされているマシンのアドレスにしてください。
RWP_GATEWAY_PROFILE Gateway Profile Name	default	Portal Server または Secure Remote Access サポートをインストールしたときに指定したのと同じプロファイル名を指定します。詳細については、『Sun Java System Portal Server Secure Remote Access 6 2005Q1 管理ガイド』の「ゲートウェイプロファイルの作成」を参照してください。
RWP_LOAD_BALANCER_URL Load balancer controlling Portal Server Instances.		ロードバランサ URL を何も使用していない場合は、Portal Server URL を使用します。 http://fully-qualified-domain:port/portal-deploy-uri たとえば、 http://myportalbox.mydomain.com:80/portal とします。
RWP_CERT_INFO		証明書情報は、「CN=\$GW_HOST,L=<市区町村名>,ST=<都道府県名>,C=<国名を示す2文字コード>,O=<所属組織名>,OU=<所属部門名>」の形式で指定してください。 たとえば、 「CN=\$GW_HOST,L=SantaClara,ST=California,C=us,O=Portal,OU=Sun」のようになります。
RWP_SRA_LOG_USER_PASSWORD Gateway Logging User Password		これにより、非ルートアクセス権のある管理者は、ゲートウェイのログファイルを見ることができます。

対話型モードでの Portal Server の設定

1. 端末ウィンドウのルートとして、psconfig バッチファイルが格納されたディレクトリに移動します。

```
cd PortalServer-base/config
```

2. 対話型モードで Portal Server を設定するには、「psconfig-c <コンポーネント名>」と入力して psconfig バッチファイルを実行し、その後、設定に関する質問に対して適切な答えを入力し設定作業を進めます。

Portal Server

表 8 では、インストール後の最低限の設定作業で必要になる値の一覧を 3 列にまとめています。使用する値は、実行するインストール方法に応じて異なります。

表 8 Portal Server の設定用チェックリスト

質問	デフォルト値	説明
Portal Server 設定情報		
What is the Portal Server Web Containers host	myportalbox.mydomain.com	Portal Server の完全修飾名
Is the Portal Server Web Containers port secure	No	Portal Server へのアクセス時に使用するプロトコルです。設定する値は、プロトコルが http の場合は「No」、プロトコルが https の場合は「Yes」です。
What is the Portal Server Web Containers port	80	Portal Server へのアクセスで使用するポート番号です。
What is the Portal Server deployment URI	/portal	URI は、Web サーバーまたはアプリケーションサーバー上の空間であり、Portal Server が使用します。配備 URI の値の先頭にはスラッシュを置き、かつスラッシュを 1 つだけ使用する必要があります。ただし、配備 URI を「/」だけにすることはできません。
Choose the container to which the portal server needs to be configured:	1	Portal Server が配備される Web コンテナです。次のような値をとります。
1. Sun Java System Web Server		1 = Sun Java System Web Server
2. Sun Java System Application Server 8.1		2 = Sun Java System Application Server 8.1
Web コンテナ情報		
Sun Java System Web Server		

表 8 Portal Server の設定用チェックリスト (続き)

質問	デフォルト値	説明
Where is the Web Container installed	C:\¥Sun¥Application Server	Sun Java System Web Server がインストールされているディレクトリです。
What is the Web Container instance	myportalbox.mydomain.com	Portal Server で使用する Web サーバーインスタンスです。 注: インスタンス名にはスペースを入れないでください。
Web コンテナ情報 Sun Java System Application Server 8.1		
Where is the Web Container installed	C:\¥Sun¥Application Server	Sun Java System Application Server 8.1 がインストールされているディレクトリです。
What is the Web Container domain	domain1	Sun Java System Application Server ドメインには、インスタンスのセットがありません。指定されるドメインは、Portal Server が使用するインスタンスを含みます。このドメインは、あらかじめ設定されている必要があります。
What is the Web Container Deploy Instance Dir	C:\¥Sun¥Application Server¥domains¥domain1	指定されたドメインのフルパスで、Portal Server 用に指定されます。
What is the Web Container Deploy Instance	server	Portal Server の配備先となる Sun Java System Application Server インスタンスの名前です。このインスタンスは、あらかじめ設定されている必要があります。インスタンス名にはスペースを入れないでください。
What is the Web Container Document Directory	C:\¥Sun¥Application Server¥domains¥domain1¥docroot	スタティックページを保持する Application Server ディレクトリです。
Who is the Web Container administrator	admin	管理者ユーザー ID です。
What is the HostName of the Machine where Web Container is Installed	myportalbox.mydomain.com	管理サーバーのホスト名です。
Is the Web Container administration port secure	Yes	Portal Server へのアクセス時に使用するプロトコルです。設定する値は、プロトコルが http の場合は「No」、プロトコルが https の場合は「Yes」です。

表 8 Portal Server の設定用チェックリスト (続き)

質問	デフォルト値	説明
What is the Web Container administration port	4849	管理サーバーのポート番号です。注 : Sun Java Application Server 8.1 のデフォルト管理者ポート番号は「4849」です。
What is the Web Container administrator password		Web コンテナの管理者パスワードです。
Identity Server 情報		
What is the Access Manager Administrator (amadmin) Password		Sun Java System Identity Server ソフトウェアのインストール時に選択したトップレベルの管理者 (amadmin) パスワードです。
Administrator (amadmin) Password		
Again		トップレベルの管理者 (amadmin) パスワードを再入力します。
What is the Access Manager Internal LDAP Authentication User Password		Sun Java System Identity Server のインストール時に選択した内部 LDAP 認証ユーザーパスワードです。
Internal LDAP Authentication User Password		
Again		内部 LDAP 認証ユーザーパスワードを再入力します。
What is the Directory Manager DN	cn=Directory Manager	Sun Java System Directory Server のインストール時に選択した Directory Manager DN です。
Directory Manager DN		
What is the Directory Manager Password		Sun Java System Directory Server のインストール時に選択した Directory Manager パスワードです。
Directory Manager Password		
Again		Directory Manager のパスワードを再入力します。
PS_DEPLOY_ADMIN_PASSWORD		Web コンテナの管理者パスワードです。
Deploy AdministratorPassword		

表 8 Portal Server の設定用チェックリスト (続き)

質問	デフォルト値	説明
Secure Remote Access Core の設定情報 (Secure Remote Access サポートを設定する場合)		
What is the Gateway protocol Gateway Protocol	https	ゲートウェイが使用するプロトコルです。ゲートウェイは、Secure Socket Layer (SSL) を使用して通信します。
What is the Portal Server domain Portal Server Domain	portal-server-domain-name	Portal Server がインストールされているマシンのドメイン名です。
What is the Gateway domain Gateway Domain	gateway-domain-name	ゲートウェイマシンのドメイン名です。
What is the Gateway port Gateway Port	443	ゲートウェイが待機するポートです。
What is the Gateway profile Gateway Profile Name	default	ゲートウェイプロファイルには、ゲートウェイが待機するポート、SSL オプション、プロキシオプションなど、ゲートウェイの設定に関連するすべての情報が保存されています。 ゲートウェイ管理コンソールで複数のプロファイルを作成し、ゲートウェイの別のインスタンスと別のプロファイルを関連付けることができます。 『Sun Java System Portal Server Secure Remote Access 6 2005Q1 管理ガイド』の「ゲートウェイプロファイルの作成」を参照してください。
What is the Gateway logging user password Gateway Logging User Password		これにより、非ルートアクセス権のある管理者は、ゲートウェイのログファイルを見ることができます。
Again		ゲートウェイロギングのユーザーパスワードを再入力します。

Gateway

表 9 は、3 列で構成されるゲートウェイの設定用チェックリストの表です。最初の列はパラメータの一覧です。2 列目にはパラメータのデフォルト値を示しています。3 列目はパラメータの説明です。

表 9 ゲートウェイの設定用チェックリスト

パラメータ	デフォルト値	説明
What is the Gateway protocol	https	ゲートウェイが使用するプロトコルです。ゲートウェイは、通常 Secure Socket Layer (SSL) を使用して通信します。
What is the Gateway host	mygwbox.mydomain.com	ゲートウェイがインストールされているマシンのホスト名です。
What is the Gateway port	443	ゲートウェイマシンが待機するポートです。
What is the Gateway IP Address	gw-host-ip-address	IP アドレスは、Sun Java System Identity Server ではなく、ゲートウェイがインストールされているマシンのアドレスにしてください。
What is the Gateway profile Gateway Profile Name	default	ゲートウェイプロファイルには、ゲートウェイが待機するポート、SSL オプション、プロキシオプションなど、ゲートウェイの設定に関連するすべての情報が保存されています。 ゲートウェイ管理コンソールで複数のプロファイルを作成し、ゲートウェイの別のインスタンスと別のプロファイルを関連付けることができます。 『Sun Java System Portal Server Secure Remote Access 6 2005Q1 管理ガイド』の「ゲートウェイプロファイルの作成」を参照してください。
What is the Gateway logging user password Gateway Logging User Password		これにより、非ルートアクセス権のある管理者は、ゲートウェイのログファイルを見ることができます。
Again		ゲートウェイログインのユーザーパスワードを再入力します。

表 9 ゲートウェイの設定用チェックリスト (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
What is the Portal Server Load Balancer URL Load balancer controlling Portal Server Instances.		ロードバランサ URL を何も使用していない場合は、Portal Server URL を使用します。 <code>http://fully-qualified-domain:port/portal-deploy-uri</code> たとえば、 <code>http://myportalbox.mydomain.com:80/portal</code> とします。
証明書情報		
What is the name of your organization	MyOrganization	所属組織名。
What is the name of your division	MyDivision	所属部門名。
What is the name of your city or locality	MyCity	市区町村名。
What is the name of your state or province	MyState	都道府県名。
What is the two-letter country code	us	国名を示す 2 文字コード。
What is the password for the Certificate Database		任意のパスワードを選択できます。
Again		確認のため証明書データベースのパスワードを再入力します。

Netlet プロキシ

表 10 は、3 列で構成される Netlet プロキシの設定用チェックリストの表です。最初の列はパラメータの一覧です。2 列目はデフォルト値の一覧です。3 列目は説明です。

表 10 Netlet プロキシの設定用チェックリスト

パラメータ	デフォルト値	説明
What is the Netlet Proxy protocol	https	Netlet プロキシが使用するプロトコルです。Netlet プロキシは、通常 Secure Socket Layer (SSL) を使用して通信します。
What is the Netlet Proxy host	myportalbox.mydomain.com	Netlet プロキシがインストールされているマシンのホスト名です。

表 10 Netlet プロキシの設定用チェックリスト (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
What is the Netlet Proxy port	10555	Netlet プロキシが待機するポートです。
What is the Netlet Proxy IP Address	<i>host-ip-address</i>	IP アドレスは、Sun Java System Identity Server ではなく、Netlet プロキシがインストールされているマシンのアドレスにしてください。
What is the Gateway profile Gateway Profile Name	default	Portal Server または Secure Remote Access サポートをインストールしたときに指定したのと同じプロファイル名を指定します。 詳細については、『Sun Java System Portal Server Secure Remote Access 6 2005Q1 管理ガイド』の「ゲートウェイプロファイルの作成」を参照してください。
What is the Gateway logging user password Gateway Logging User Password		これにより、非ルートアクセス権のある管理者は、ゲートウェイのログファイルを見ることができます。
Again		ゲートウェイロギングのユーザーパスワードを再入力します。
What is the Portal Server Load Balancer URL Load balancer controlling Portal Server Instances.		ロードバランサ URL を何も使用していない場合は、Portal Server URL を使用します。 <code>http://fully_qualified_domain:port/portal_deploy_uri</code> たとえば、 <code>http://myportalbox.mydomain.com:80/portal</code> とします。
証明書情報		
What is the name of your organization	MyOrganization	所属組織名。
What is the name of your division	MyDivision	所属部門名。
What is the name of your city or locality	MyCity	市区町村名。
What is the name of your state or province	MyState	都道府県名。

表 10 Netlet プロキシの設定用チェックリスト (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
What is the two-letter country code	us	国名を示す 2 文字コード。
What is the password for the Certificate Database		任意のパスワードを選択できます。
Again		確認のため証明書データベースのパスワードを再入力します。

Rewriter プロキシ

表 11 は、3 列で構成される Rewriter プロキシの設定用チェックリストの表です。最初の列はパラメータの一覧です。2 列目はデフォルト値の一覧です。3 列目は説明です。

表 11 Rewriter プロキシの設定用チェックリスト

パラメータ	デフォルト値	説明
What is the Rewriter Proxy protocol	https	Rewriter プロキシが使用するプロトコルです。Rewriter プロキシは、通常 Secure Socket Layer (SSL) を使用して通信します。
What is the Rewriter Proxy host	myportalbox.mydomain.com	Rewriter プロキシがインストールされているマシンのホスト名です。
What is the Rewriter Proxy port	10443	Rewriter プロキシが待機するポートです。
What is the Rewriter Proxy IP Address	host-ip-address	IP アドレスは、Sun Java System Identity Server ではなく、Rewriter プロキシがインストールされているマシンのアドレスにしてください。
What is the Gateway profile Gateway Profile Name	default	Portal Server または Secure Remote Access サポートをインストールしたときに指定したのと同じプロファイル名を指定します。 詳細については、『Sun Java System Portal Server Secure Remote Access 6 2005Q1 管理ガイド』の「ゲートウェイプロファイルの作成」を参照してください。
What is the Gateway logging user password Gateway Logging User Password		これにより、非ルートアクセス権のある管理者は、ゲートウェイのログファイルを見ることができます。

表 11 Rewriter プロキシの設定用チェックリスト (続き)

パラメータ	デフォルト値	説明
Again		ゲートウェイロギングのユーザーパスワードを再入力します。
What is the Portal Server Load Balancer URL		ロードバランサ URL を何も使用していない場合は、Portal Server URL を使用します。 <code>http://fully-qualified-domain:port/portal-deploy-uri</code>
Load balancer controlling Portal Server Instances.		たとえば、 <code>http://myportalbox.mydomain.com:80/portal</code> とします。
証明書情報		
What is the name of your organization	MyOrganization	所属組織名。
What is the name of your division	MyDivision	所属部門名。
What is the name of your city or locality	MyCity	市区町村名。
What is the name of your state or province	MyState	都道府県名。
What is the two-letter country code	us	国名を示す 2 文字コード。
What is the password for the Certificate Database		任意のパスワードを選択できます。
Again		確認のため証明書データベースのパスワードを再入力します。

インストール後のタスクの詳細については、25 ページの「Portal Server のインストール後のタスク」を参照してください。

サイレントモードでの Portal Server の設定

`samplesilent` ファイルを使用して Portal Server を設定するには、`PortalServer-base/config` にある `psamplesilent` ファイルを修正して、`psconfig` バッチファイルを実行します。

1. 端末ウィンドウのルートとして、`psconfig` バッチファイルが格納されたディレクトリに移動します。

```
cd PortalServer-base/config
```


2. 次のように入力します。

```
psconfig -s -c<コンポーネント名>
```

インストール後のタスクの詳細については、25 ページの「Portal Server のインストール後のタスク」を参照してください。

Portal Server のインストール後のタスク

次のコンポーネントそれぞれに対して、インストール後タスクを実行する必要があります。

- Portal Server
- Secure Remote Access
- Gateway
- Netlet プロキシと Rewriter プロキシ

Portal Server

Portal Server または Identity Server の管理コンソールを開くには、まず Directory Server と Web コンテナを起動する必要があります。

次のインストール後タスクは、Portal Server を配備した Web コンテナの種類によって異なります。

- Sun Java System Web Server
- Sun Java System Application Server

Sun Java System Web Server

Sun Java System Web Server を起動するには、次の手順に従います。

1. Windows サービスで Web インスタンスを起動します。

または

1. Sun Java System Web Server の管理コンソールにアクセスします。
2. 「変更の適用」をクリックして、Web コンテナを再起動します。

Sun Java System Application Server 8.1

Application Server インスタンスを設定するには、次の手順に従います。

1. ドメインインスタンスを停止します。端末ウィンドウで次のように入力します。

```
AppServer-base#bin%asadmin.bat stop-domain ドメイン名
```

たとえば次のようになります。

```
C:¥Sun¥ApplicationServer¥bin¥asadmin.bat stop-domain domain1
```

2. ドメインインスタンスを起動します。端末ウィンドウで次のように入力します。

```
AppServer-base¥bin¥asadmin.bat start-domain --user  
administrator-user-name --password administrator-user-password domainname
```

たとえば次のようになります。

```
C:¥Sun¥ApplicationServer¥bin¥asadmin.bat start-domain --user admin  
--password  
password domain1
```

Secure Remote Access

ゲートウェイと一緒に Portal Server を使用する場合は、Portal Server が HTTP と HTTPS のどちらのモードで動作するかどうかに関係なく、ゲートウェイ認証局 (CA) 証明書を Portal Server の信頼できる CA リストに追加する必要があります。

ユーザーセッションがタイムアウトになるか、ユーザーセッションのログアウト動作が行われると、Sun Java System Identity Server はセッション通知をゲートウェイに送信します。Sun Java System Identity Server が HTTP モードで実行している場合でも、HttpsURLConnection を使用して SSL クライアントとして動作し、通知を送信します。SSL サーバー (ゲートウェイ) に接続するので、信頼できる CA リストの一部としてゲートウェイ CA 証明書を持っているか、自己署名証明書を許可するオプションを用意するようにします。

注 CA を信頼できる CA リストに追加する方法は、定義されているプロトコルハンドラによって異なります。

HttpsURLConnection を作成するには、Java 仮想マシン (JVM™) の `-Djava.protocol.handler.pkgs` プロパティを設定する必要があります。

Portal Server が Sun Java System Web Server、Sun Java System Application Server、または BEA WebLogic Server で稼働している場合、このプロパティはデフォルトで正しく `com.ipplanet.services.com` に設定されます。Sun Java System Identity Server のパッケージには、HttpsURLConnection の実装があり、`AMConfig.properties` ファイルで `com.ipplanet.am.jsproxy.trustAllServerCerts=true` フラグを追加することにより、SSL サーバーから自己署名証明書を受け入れるオプションを提供しています。

`-Djava.protocol.handler.plgs` は、IBM WebSphere Application Server の場合には、デフォルトで設定されません。サポートするアプリケーションサーバーに実装された HttpsURLConnection では、それぞれ独自のデフォルトハンドラ (JSSE 実装または カスタム SSL 実装など) を使用する必要があります。

複数のポータルでの複数のゲートウェイの設定

第 2 のポータルに第 2 のゲートウェイをインストールする場合は、第 2 のポータルをポイントするように Cookie URL の転送値を手動で更新する必要があります。

1. Access Manager 管理コンソールにログインします。

2. 「サービス設定」タブを選択します。
3. 「ゲートウェイ」をクリックします。
4. 第2のポータルを Cookie URL の転送リストに追加します。

ゲートウェイの起動と停止

1. 次のコマンドを使用してゲートウェイを起動します。

```
Net Start SRA.Gateway.new-profile-name
```

default は、インストール時に作成されたゲートウェイプロファイルのデフォルト名です。独自のプロファイルを後で作成し、その新しいプロファイルを使用してゲートウェイを再起動できます。『Sun Java System Portal Server Secure Remote Access 6 2005Q1 管理ガイド』の第2章「ゲートウェイプロファイルの作成」を参照してください。

注 ゲートウェイのインストール時に、インストールオプションの後に「ゲートウェイの起動」に「y」を選択した場合は、この手順は不要です。

Netlet プロキシと Rewriter プロキシ

Netlet プロキシと Rewriter プロキシを起動する前に、ゲートウェイプロファイルが、Netlet プロキシと Rewriter プロキシのオプションを指定して更新されていることを確認してください。

- Netlet プロキシを起動するオプションをインストール時に選択しなかった場合は、手動で Netlet プロキシを起動できます。

```
net start SRA.Netlet.default
```
- Rewriter プロキシを手動で起動するオプションをインストール時に選択しなかった場合は、手動で Rewriter プロキシを起動できます。

```
net start SRA.rewriter.default
```

注 すべてのユーザーに対するアクセスリストサービスを有効にして、ゲートウェイ経由のアクセスが許可されるようにしてください。

Sun Java System Portal Server のソフトウェア NetFile では、Windows にアクセスするために、SUNWjcifs としてバンドルされている jCIFS ライブラリが必要です。このライブラリは、Portal Server ノードにのみインストールする必要があります。

Portal Server のインストールの検証

Portal Server 管理コンソールとデスクトップへのアクセス

Sun Java System Identity Server の管理コンソールにアクセスするには

1. ブラウザを開きます。
2. `protocol://hostname.domain:port/amconsole` と入力します。
たとえば次のようになります。
`http://example.com:80/amconsole`
3. 管理者名とパスワードを入力して管理コンソールを表示します。

この名前とパスワードは、Sun Java System Identity Server ソフトウェアのインストール時に指定したものです。

Portal Server のデスクトップにアクセスするには

デスクトップにアクセスして、Portal Server インストールを検証します。次の URL を使用してデスクトップにアクセスします。 `protocol://fully-qualified-hostname:port/portal-URI`

たとえば次のようになります。

```
http://example.com:80/portal
```

デスクトップにアクセスすると、認証なしのデスクトップが表示されます。これによりユーザーは、認証を受けるデスクトップの URL に自動的にアクセスし、デスクトップへのアクセス権が与えられます。

例外が発生せずにサンプルのポータルデスクトップが表示された場合は、Portal Server が正常にインストールされています。

ゲートウェイのインストールの検証

1. 次のコマンドを実行して、指定されたポート (デフォルトポートは 443) でゲートウェイが動作しているかどうかをチェックします。

```
net start
```

ゲートウェイが動作していない場合は、デバッグモードでゲートウェイを起動し、コンソールに表示されるメッセージを見ます。次のコマンドを使用して、ゲートウェイをデバッグモードで起動します。

```
net start debug
```

または、`platform.conf.profilename` ファイルで `gateway.debug` 属性をメッセージに設定した後で、ログファイルを調べます。詳細については、『Sun Java System Portal Server Secure Remote Access 6 2005Q1 管理ガイド』の第 2 章「ゲートウェイ」にある節「platform.conf ファイルの概要」を参照してください。

2. ブラウザで次のようにゲートウェイの URL を入力し、セキュアモードで Portal Server を実行します。

```
https://gateway-machine-name:portnumber
```

インストール時にデフォルトポート 443 番を選択した場合は、そのポート番号を指定する必要はありません。

3. ユーザー名として `amadmin`、およびインストール時に指定したパスワードを使用して、Identity Server 管理コンソールに管理者としてログインします。

これにより、管理コンソールで、新規の組織、ロール、およびユーザーを作成し、必要なサービスと属性を割り当てることができます。

このリリースで修正されるバグ

Portal Server 6 2005Q4 で修正されるバグの一覧を次の表に示します。

表 12 Portal Server 6 2005Q4 で修正されるバグ

バグ ID	説明
6302434	JES3 SF b12c: CCJK ロケール上の「アプリケーション」チャンネルにリンクが 2 つ足りません。
6294644	「SPTableContainer」ページが表示できません。このページは表示できませんと表示されます。
6316742	pdeploy が WAR 引数を説明通りに使用しません。
6316749	dpadmin が Windows 上で動作しません。
6317223	pdeploy は Web コンテナから配備を解除しません。

重要な情報

ここでは製品マニュアルに含まれていない最新の情報について説明します。ここでは、次の項目について説明します。

- [インストールに関する注意事項](#)
- [推奨されなくなった機能](#)
- [互換性に関する問題](#)
- [Portal Server 6 2005Q4 の更新マニュアル](#)
- [障害者のためのアクセシビリティ機能](#)

インストールに関する注意事項

Portal Server

Java Enterprise System 6 2005Q4 の場合、Portal Server は次のどちらかの Access Manager で実行するようにインストールおよび設定できます。

- 物理的に同じマシン上の同じインストールセッションでインストールされ、設定されている Access Manager
- すでに別のマシンにインストールされ、設定されている Access Manager

Liberty サンプルを実行するには

Liberty サンプルは、同じシステム上にインストールされている Portal Server と Access Manager 用に設計されています。

Portal Server および Access Manager が個別にインストールされている場合に Liberty サンプルを実行する方法は、次のとおりです。

1. configSP.sh の SP_HOST_DOMAIN 値が、Access Manager が完全にインストールされたホストをポイントしていることを確認します。
2. サービスプロバイダとして稼働している Access Manager の管理コンソールで、「Provider Home Page」を URL=http://portal-server-host:port/portal/dt に設定します。
この値を設定する方法を次に示します。
 - a. 「連携管理」タブを選択します。
 - b. ナビゲーションフレームでサービスプロバイダを選択します。
 - c. データフレームのドロップダウンリストからプロバイダを選択します。

- d. 「Access Manager の設定」 セクションまでスクロールダウンします。
 - e. 「Provider Home Page」 を URL=`http://portal-server-host:port/portal/dt` に設定します。
Liberty サンプル 3 の場合のみ、手順 3 と手順 4 を実行します。
3. 「シングルサインオンエラー時のリダイレクト URL」 を変更し、
`http://portal-server-host:port/portal/dt?libertySSOFailed=true` に設定します。
この値を設定する方法を次に示します。
- a. 「連携管理」 タブを選択します。
 - b. ナビゲーションフレームでサービスプロバイダを選択します。
 - c. データフレームのドロップダウンリストからプロバイダを選択します。
 - d. 「Access Manager の設定」 セクションまでスクロールダウンします。
 - e. 「シングルサインオンエラー時のリダイレクト URL」 を、
`http://portal-server-host:port/portal/dt?libertySSOFailed=true` に設定します。
4. 「PreLoginURL」 を、
`http://portal-server-host:identity-server-port/amserver/preLogin?metaAlias=is-host&goto=http://portal-server-host:portal-server-port/portal/dt` に設定します。
この値を設定する方法を次に示します。
- a. 「アイデンティティ管理」 に移動し、ドロップダウンメニューから「ユーザー」を選択します。
 - b. 認証なしの **anonymous** ユーザーをクリックし、ナビゲーションフレームの「表示」ドロップダウンリストから「ポータルデスクトップ」を選択します。
 - c. 「編集」 リンクをクリックします。
 - d. 「チャンネルおよびコンテナを管理」 をクリックします。
 - e. Login チャンネルの「プロパティの編集」 をクリックします。
 - f. 「PreLoginURL」 を、
`http://portal-server-host:identity-server-port/amserver/preLogin?metaAlias=is-host&goto=http://portal-server-host:portal-server-port/portal/dt` に設定します。
5. Portal Server ホストの `AMConfig.properties` ファイルを次のように設定します。
- o `com.ipplanet.am.notification.url=http://portal-server-host:port/servlet/com.ipplanet.services.comm.client.PLLNotificationServlet`
 - o `com.ipplanet.am.session.client.polling.enable=false`

Web コンテナ

Sun Java Server コンポーネント製品のインストールの詳細については、<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-5408?l=ja> の『Sun Java Enterprise System 2005Q4 インストールガイド (Microsoft Windows 版)』を参照してください。

パッチ要件に関する情報

次の表に、整合パッチの番号と最小バージョンを示します。この節で示すパッチはすべて、アップグレードに必須の最小バージョン番号です。このリリースノートの発行以降に新しいバージョンのパッチが公開されていることもあります。新しいバージョンでは、パッチ末尾のバージョン番号が異なります。たとえば、123456-04 は 123456-02 の新バージョンですが、同じパッチ ID です。一覧に示されている各パッチに固有の注意事項については、それぞれに付属の README ファイルを参照してください。

パッチを入手するには、<http://sunsolve.sun.com> にアクセスします。

表 13 Windows 版の Portal Server 6 2005Q4 整合パッチ

パッチ番号	パッチの説明
121523-01	Windows (MSI): 共有コンポーネントパッチ
121532-01	Windows (MSI): Sun Java™ System Portal Server 6 2005Q4

Portal Server を JES3 から JES4 にアップグレードするための手順については、『Sun Java Enterprise System 2005Q4 Upgrade Guide for Microsoft Windows』(<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-4461>) を参照してください。

互換性に関する問題

非推奨に関する通知および発表

Portal Server CLI

既存の Portal Server コマンド行ユーティリティは、推奨されません。これらの機能は、今後のリリースで単一の Portal Server コマンド行ユーティリティに置き換えられます。次の Portal Server コマンド行ユーティリティは、推奨されません。これらの機能は、今後のリリースで単一の Portal Server コマンド行ユーティリティに置き換えられます。

- `deploy`
- `dpadmin`
- `gwmultiinstance`

- multiserverinstance
- par
- pdeploy
- rwadmin
- rwpmultiinstance
- undeploy

管理コンソール

既存の Portal Server 管理コンソールは、推奨されません。この機能は、今後のリリースで新しい Portal Server 管理コンソールに置き換えられます。

Portal Server デスクトップテンプレートコンテナプロバイダ

Portal デスクトップテンプレートコンテナプロバイダのインタフェースは推奨されなくなり、今後のリリースで削除されます。推奨されなくなるインタフェースコンポーネントは次の通りです。

- グローバルディスプレイプロファイルのデスクトップテンプレートコンテナプロバイダの定義
- デスクトップテンプレートコンテナプロバイダのプレゼンテーションファイル
- デスクトップテンプレートコンテナプロバイダのリソースバンドル
- デスクトップテンプレートコンテナプロバイダのプレゼンテーションイメージ

インストールに関する問題

Java Enterprise System インストーラを実行する場合、Access Manager 7 2005Q4 には、2 種類のインストールタイプ (またはモード) があります。

- 互換 (6.x) タイプは、Access Manager 6 コンソールとディレクトリ情報ツリー (DIT) を含む Access Manager 6 の機能をサポートします。
- 拡張 (7.x) タイプは、新しい Access Manager 7 コンソールを含む Access Manager 7 の機能をサポートします。

Portal Server、Messaging Server、Calendar Server、Instant Messaging、および Delegated Administrator は、Access Manager 7 2005Q4 拡張 (7.x) タイプと互換性がありません。

Portal Server、Messaging Server、Calendar Server、Instant Messaging、または Delegated Administrator とともに Access Manager をインストールする場合は、Access Manager 互換 (6.x) インストールタイプ (デフォルト) を選択する必要があります。

推奨されなくなった機能

NetMail アプリケーションは、Sun Java System Portal Server 製品のこのリリースでは推奨されていません。

Portal Server 6 2005Q4 の更新マニュアル

次に、Portal Server 6 2005Q1 マニュアルセットの更新マニュアルと追加マニュアルについて説明します。

Portal Server 管理ガイド

Instant Messaging チャンネルの編集ページの設定が変更されています。管理者が 1 つの Instant Messaging Server 用にチャンネルを設定していないとしても、デスクトップのユーザーが設定する必要がある設定値は 2 つだけになりました。

設定する必要がある 2 つの Instant Messaging Server の設定は次のとおりです。

- Instant Messaging ホスト
- Instant Messaging ポート

Secure Remote Access 管理ガイド

次の項目は、オンラインヘルプまたは『Sun Java System Portal Server 6 2005Q1 Secure Remote Access 管理ガイド』には記載されていませんが、Access Manager 管理コンソールの一部です。

- 「ゲートウェイ」-> 「コア」-> 「ゲートウェイ最低認証レベル」については、オンラインヘルプまたは管理ガイドに記載されていません。
- Access Manager コンソールに表示されるような Proxylet のルールについては、オンラインヘルプまたは管理ガイドに記載されていません。Proxylet のルールの設定情報については、「[Proxylet のルール](#)」を参照してください。

HTTP 基本認証の有効化

1. Access Manager 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「サービス設定」タブを選択します。
3. 「SRA 設定」の下の「ゲートウェイ」の横にある矢印をクリックします。
4. 「ゲートウェイ」ページが表示されます。
5. 属性を設定するゲートウェイプロファイルを選択します。
6. 「ゲートウェイプロファイルを編集」ページが表示されます。

7. 「コア」タブをクリックします。
8. 「HTTP 基本認証を有効」チェックボックスをオンにし、HTTP 基本認証を有効にします。
9. 「保存」をクリックして変更を記録します。
10. 端末ウィンドウからゲートウェイを再起動します。

```
net start SRA.Gateway.gateway-profile-name
```

Proxylet のルール

Access Manager 管理コンソールには、「Proxylet のルール」フィールドが追加されています。

Proxylet のルールにより、Proxy Auto Configuration (PAC) ファイルのドメインとプロキシの設定値を指定します。

Proxylet のルールを変更するには、次の手順に従います。

1. Access Manager 管理コンソールに管理者としてログインします。
2. 「アイデンティティ管理」タブを選択します。
3. 「表示」ドロップダウンリストから「組織」を選択します。
4. 必要な組織名をクリックします。選択した組織名は、管理コンソールの左上に場所として表示されます。
5. 「表示」ドロップダウンリストから「サービス」を選択します。
6. 「SRA 設定」の下の「Proxylet」の横にある矢印をクリックします。
7. 「編集」をクリックします。
8. 次の構文を使用して、プロキシホストとプロキシポートを入力します。

```
[Protocol:]Domain1[,Domain2,...]:IP or Host:Port
```

構文の意味は次のとおりです。

Protocol - http/ftp/https のいずれかを指定できます。このフィールドはオプションです。

Domain - sun.com などの任意のドメインです。複数のドメインの場合はカンマで区切ります。

IP - ドメインの IP アドレスです。

proxy-host - このドメインで使用されるプロキシサーバー

proxy-port - プロキシサーバーのポート

9. 「保存」をクリックします。

次の特殊な構文により、値をルールに動的に挿入できます。

ルールの中に、proxylet-host:proxylet-port というプロキシサーバーを示す文字列がある場合、生成された PAC ファイルでは、その文字列が Proxylet のホストとポートで置き換えられています。

オンラインヘルプ

検索チャンネルヘルプページの詳細検索セクションでは、次のように述べられています。

- URL - ドキュメントの **Uniform Resource Locator (Web アドレス)**。URL を指定する場合は、次の点に注意してください。
 - *Is* または *Begins with* 演算子を使用する場合は、アドレスの `http://` 部分を入力する必要があります。

Is および *Begins with* の各演算子は、使用されなくなっています。

障害者のためのアクセシビリティ機能

このメディアの出版以降にリリースされたアクセシビリティ機能を入手するには、Sun に米国リハビリテーション法 508 条に関する製品評価資料を請求し、その内容を確認して、どのバージョンが、アクセシビリティに対応したソリューションを配備するためにもっとも適しているかを特定してください。更新されたバージョンのアプリケーションは、<http://sun.com/software/javaenterprisesystem/get.html> にあります。

アクセシビリティに対する Sun の対応については、<http://sun.com/access> を参照してください。

既知の問題と制限

ここでは、Portal Server 6 2005Q1 for Windows に関する既知の問題と制限について説明します。ここでは、次の項目について説明します。

- [dpadmin](#)
- [インストール](#)
- [コンフィギュレータ](#)
- [Proxylet](#)
- [ポートレット](#)
- [オンラインヘルプ](#)
- [通信チャンネル](#)
- [Secure Remote Access](#)
- [ゲートウェイ](#)
- [NetFile](#)

- [Netlet](#)
- [Rewriter](#)
- [ドキュメント](#)
- [Mobile Access](#)
- [ローカライズ](#)

dpadmin

dpadmin ユーティリティが、「list」および「merge」オプションでコンテンツを表示しない (6341854)
dpadmin コマンド行ユーティリティは、「リスト」および「マージ」オプションのコマンド行出力を返しません。

回避策

「リスト」および「マージ」オプションとともに dpadmin コマンドを起動した後、同じ場所に list/merge.txt ファイルが生成されます。このファイルにコマンドの出力が含まれます。

たとえば次のようになります。

```
C:/Sun/PortalServer/bin>dpadmin list -u amadmin -w admin123 -b -g
```

これによって、C:/Sun/PortalServer/bin ディレクトリに list.txt ファイルが作成されます。マージオプションの場合は、merge.txt ファイルが作成されます。

インストール

複数セッションによるインストールでゲートウェイのリダイレクションが行われない (4971011)
インストールモードに関係なく、ゲートウェイのリダイレクションは複数セッションによるインストールの間は発生しません。

回避策

1. Portal Server ブラウザを起動して、amconsole にアクセスします。
2. 「サービス設定」タブで、「ゲートウェイ」を選択します。
3. ウィンドウの右下で、「default」および「セキュリティ」タブをクリックします。
4. 続いて、「非認証 URL」フィールドに、「http://IS-Host:port/amserver/UI/Login」のような URL を追加します。

たとえば、http://boa.prc.sun.com:80/amserver/UI/Login のような URL になります。

- 最後に、スーパーユーザーとして以下のコマンドを実行してポータルゲートウェイを再起動します。

```
net start SRA.Gateway.default
```

コンフィギュレータ

Identity Server が Directory Server を LDAPS で実行させている場合、Portal Server コンフィギュレータが作動しない。(5044585)

回避策

DS の SSL 機能を無効にし、非 SSL ポートで AMConfig.properties を更新して、Portal Server を正常にインストールします。

Proxylet

iNotes および Microsoft Exchange 2000 SP3 が Proxylet でサポートされていない。(バグ ID なし)

いくつかの機能を実行しているときに iNotes にページを表示できない。(6190570)

次のモジュールの場合にエラーが発生し、iNotes に「ページを表示できません」というメッセージが表示されます。

- メール
- 予約
- 予定
- 連絡先
- メッセージ領域

このメッセージは、「保存」ボタンと「削除」ボタンを使用する場合に表示されます。

回避策

なし

Proxylet のダウンロード後に NetFile ヘルプが表示されなくなる。(6180420)

Proxylet と NetFile をダウンロードした場合は、NetFile ヘルプが表示されず、Java コンソールで例外がスローされます。

回避策

なし

Proxylet をダウンロードした後、ポータルデスクトップに SSL モードでアクセスできなくなる。(4990035)
Portal Server が SSL モードの場合は、Proxylet のダウンロード後にポータルデスクトップをダウンロードできません。

回避策

なし

Proxylet のルールヘルプを利用できない。(5107957)

Proxylet のルールの設定については、『Documentation Updates for Portal Server 6 2005Q4』を参照してください。

Proxylet からユーザーの amconsole にアクセスすると、「アクションは取り消されました」ページが表示される。(6190566)

ゲートウェイを経由してポータルデスクトップにログインし、Proxylet をロードして、管理コンソールにアクセスしようとする、ビューリストボックスが「アクションは取り消されました」ページを返します。

回避策

なし

ポートレット

ポートレットセッションがクラスタの管理対象サーバー全体で保存されない。(6190600)

ポートレットの HTTP セッションのフェイルオーバーは機能しません。

回避策

なし

オンラインヘルプ

アドレス帳チャンネルの「オンラインヘルプ」ボタンが欠落している。(6193284)

アドレス帳チャンネルの「ヘルプ」アイコンにより、ブラウザに「ページが見つかりません」例外が表示されます。

回避策

なし

通信チャンネル

メールチャンネルにログインページが表示されない。(4873659)

Sun Java System Messaging Server の ipsecurity 設定が「yes」になっている場合、メールチャンネルは Messenger Express クライアントを正常に起動しません。メールチャンネルで通常どおり Messenger Express クライアントを起動するには、Messaging Server の ipsecurity 設定を「no」にする必要があります。

回避策

Messaging Server の ipsecurity 設定を「no」に設定します。

MailProvider がセキュアな SSL IMAP で動作しない。(4919693)

現在実装されている MailProvider は、SSL secured IMAP では動作しません。

回避策

IMAPS チャンネルを設定した後、そのチャンネルが Portal Server でのエラーをコンテナである Web Server に表示する場合は、mail.jar を CLASSPATH の最初のエントリに変更します。

mail.jar ファイルをクラスパスの最初のファイルとして追加するには、次の手順に従います。

1. ws-install-dir/https-ws-instance-name/config/server.xml ファイルを開きます。
2. mail.jar ファイルをクラスパスの最初のエントリに変更します。
3. Web Server を再起動します。

新しく作成したアドレス帳チャンネルがデスクトップに表示されない。

アドレス帳サービスは最初に設定する必要があります。AddressBookProvider はあらかじめ設定されていないので、AddressBookProvider が設定されていない限り、AddressBookProvider に基づいてユーザーが作成するチャンネルはユーザーのデスクトップまたはコンテンツリンクに表示されません。詳細については、『Sun Java System Portal Server 管理ガイド』の第 17 章にある「アドレス帳チャンネルの設定」、および付録 A の「SSO アダプタテンプレートと設定」を参照してください。

あらかじめ入力済みのユーザー定義チャンネルセットに含まれる他の通信チャンネルに基づいてチャンネルを作成すると、作成されたチャンネルで、「有効な設定を指定してください」というメッセージが表示されます。他の通信チャンネルは、ユーザーのデスクトップに表示するのに必要な程度には定義されていますが、使用するバックエンドサービスを確定するために追加の管理作業が必要になります。

また、通信チャンネルでは、管理作業が完了した後で、デスクトップユーザーがユーザー名やパスワードなどのバックエンド資格情報を指定する必要があります。デスクトップユーザーは、チャンネルの「編集」ボタンを使用して、これらの値をチャンネルで指定することができます。

注 userDefinedChannels セットには、ユーザー固有のセットアップには適用されないバックエンドサービスへの参照が含まれる場合があるので、インストール単位で管理することが必要になる場合もあります。たとえば、このセットのすべての Lotus プロバイダは、通信チャンネルの Lotus バックエンドサービスとの相互動作を参照しますが、ポータルユーザーベースのうちだれも Lotus バックエンドサービスを使用しない場合は適用されません。

ドメイン名が設定されていないと、カレンダーチャンネルが起動しない。(4946959)

カレンダーチャンネルのサーバー名に完全修飾ドメイン名が含まれていないと、カレンダーチャンネルは起動しません。

回避策

サーバー名の設定に完全修飾ホスト名が使用されていることを確認してください。

SSO アダプタ設定が、分散し重複した個人用アドレス帳をサポートしない。(5020452)

旧バージョンの SSO 個人用アドレス帳 (PAB) アダプタは、コンテナ o=pab がユーザーとグループディレクトリ内に共存していることを前提としています。Portal Server 6 2005Q1 では、PAB ディレクトリサーバーを指定する「SUN-ONE-ADDRESS-BOOK」アダプタテンプレートを新しくサポートするようになりました。これにより、次のプロパティーがサポートされるようになっています。

ugHost: PAB 検索の LDAP ホスト名

ugPort: PAB 検索の LDAP ポート

回避策

これらのプロパティーは、Identity Server 管理コンソールから、「SUN-ONE-ADDRESS-BOOK」SSO アダプタテンプレートに管理者が手動で追加する必要があります。

1. Access Manager 管理コンソールにログインします。
2. 「サービス設定」>「SSO アダプタ」を選択します。
3. SSO アダプタテンプレートとして「SUN-ONE-ADDRESS-BOOK」を選択します。
4. 「プロパティーの編集」>「新規デフォルト」を選択します。
 - a. 「ugHost」を名前に指定します。
 - b. LDAP ホスト名を指定します。
 - c. 「作成」を選択します。
5. 「プロパティーの編集」>「新規デフォルト」を選択します。
 - a. 「ugPort」を名前に指定します。
 - b. LDAP ポートを指定します。
 - c. 「作成」を選択します。

メールチャネルのリンク先が、メールクライアントではなくポータルデスクトップになっている。(5053733) ユーザーがメールチャネルからログアウトリンクを選択すると、クライアントログアウトページのログアウトページは表示されません。代わりに、ポータルデスクトップページが表示されます。

回避策

この問題が発生した場合は、次の手順を実行します。

1. ポータルデスクトップを更新します。
2. 前のポータルページで「メールを起動」リンクをクリックすると、メールクライアントを再起動できます。

ログアウトの後に、ポータルデスクトップではなく、webmail ログインページが表示されるようにするには、次の手順を実行します。

1. Messaging Server で次のコードを変更します。

<messaginselve-installdir>/config/html/main.js ファイルには、restart() メソッドがあります。このメソッドは exit() から呼び出され、exit() は logout() から呼び出されます。

```
function restart () {  
    var ref = window.document.referrer != '' ? window.document.referrer : '/'  
    if (ref.indexOf('mail.html') > 0)  
        ref = '/'  
    var ind = ref.indexOf('?')  
    self.location.replace(ind > 0 ? ref.substring(0, ind) : ref)  
}
```

1 行目を変更し、メールサーバーのログインページの URL を次のように入力します。

```
var ref = window.document.referrer != '' ? "http://pavoni:2080" : '/'
```

2. メールサーバーを再起動します。
3. ブラウザのキャッシュをクリアします。

テストするには、次の手順に従います。

1. 「メールを起動」をクリックします。
2. webmail からログアウトします。
3. 「メールを起動」をクリックします。古いセッションが無効になると、webmail ログインページが表示されます。

ユニバーサル Web クライアント (UWC) メールチャネルの「メールを起動」リンクをクリックしても MailBox が開かない。(6179802)

「メールを起動」リンクをクリックすると、ユーザーの受信箱ではなく Web Server の索引ページが開きます。

Java Server Enterprise 3 では、ポータルメールチャネルによりポータルデスクトップから UWC を起動できます。

MailProvider に基づく「UWCMail」という新しいチャンネルも追加されています。UWCMail チャンネルは、デフォルトの組織またはルートサフィックスで使用可能ですが、出荷時のコンテナとは関連付けられていません。UWCMail チャンネルは、コンテナに追加する必要があります。

UWCMail チャンネルは、次のプロパティを定義します。

- title
- description
- ssoAdapter
- applicationHelperEdit
- applicationHelperURL

SSO アダプタ設定は sunUWCMail、SSO アダプタテンプレートは SUN-UWC-MAIL です。

回避策

新しい UWCMail チャンネルを使用するには、UWCMail チャンネルをチャンネルのコンテナに追加して、デスクトップに表示されるようにします。

1. Access Manager 管理コンソールから、UWCMail チャンネルを「フロントページ」タブに追加します。
2. UWCMail チャンネルを編集し、サーバーの設定値を指定します。たとえば、新規ユーザーとしてポータルデスクトップにログインし、次の値を指定して UWCMail チャンネルを編集します。
 - サーバー名 : messaging-server-name
 - IMAP サーバーポート : messaging-server-imap-port
 - ユーザー名 : uid
 - ユーザーパスワード : password
 - SMTP サーバー名 : messaging-server-smtp-server-name
 - SMTP サーバーポート : messaging-server-smtp-port
 - クライアントポート : messenger-express-client-port
 - メールドメイン : hosted-domain

UWC カレンダーチャンネルにカレンダーが表示されない。(6179806)

Java Server Enterprise 3 では、ポータルカレンダーチャンネルによりポータルデスクトップから UWC を起動できます。

CalendarProvider に基づく UWCCalendar という新しいチャンネルも追加されています。UWCCalendar チャンネルは、デフォルトの組織またはルートサフィックスで使用可能ですが、出荷時のコンテナとは関連付けられていません。UWCCalendar チャンネルは、コンテナに追加する必要があります。

UWCCalendar チャンネルは、次のプロパティを定義します。

- title
- description
- ssoAdapter
- ssoEditAttributes (clientHost および clientPort を公開)
- applicationHelperEdit
- applicationHelperURL

SSO アダプタ設定は「sunUWCCalendar」、SSO アダプタテンプレートは「SUN-UWC-CALENDAR」です。

回避策

この新規チャンネルを使用するには、次の手順に従います。

UWCCalendar チャンネルを、チャンネルのコンテナに追加して、デスクトップに表示されるようにします。

1. Access Manager 管理コンソールから、UWCCalendar チャンネルを「フロントページ」タブに追加します。
2. UWCCalendar チャンネルを編集し、サーバーの設定値を指定します。たとえば、新規ユーザーとしてポータルデスクトップにログインし、次の値を指定して UWCCalendar チャンネルを編集します。
 - サーバー名 : calendar-server-name
 - サーバーポート : calendar-server-port
 - ユーザー名 : uid
 - ユーザーパスワード : password
 - クライアントサーバー名 : uwc-client-server-name
 - クライアントポート : uwc-client-port

UWC アドレス帳が UWC アドレス帳チャンネルに表示されていない。(6179807)

SSO アダプタの実装である WabpSSOAdapter は、バックエンドからアドレス帳サーバーへの接続に、clientPort ではなく port を使用しています。このため、ポータル UWC アドレス帳は、UWC クライアントが port 80 にインストールされていない場合には失敗します。

回避策

次のいずれかの方法によってこの問題を回避できます。

- port 80 に UWC クライアントをインストールする

- SSO アダプタテンプレートまたは設定プロパティの port と値を、clientPort と同じ port と値に設定する

SSO アダプタテンプレートまたは設定プロパティの port と値を clientPort と同じに設定するには、組織レベルで指定される「マージ」プロパティとして「port」を追加します。チャンネルは、チャンネルの編集ページで「port」を公開しません。

「マージ」プロパティとして port を追加するには、次の手順に従います。

1. Access Manager 管理コンソールにログインします。
2. 「サービス設定」を選択します。
3. 「SSO アダプタ」を選択します。
4. SUN-UWC-ADDRESS-BOOK の「プロパティの編集 ...」を選択します。
5. 「新規マージ」を選択し、次のように指定します。

名前 : port

6. 「作成」を選択します。
7. 「完了」を選択します。
8. 「アイデンティティ管理」を選択します。
9. 「組織」を選択します。
10. 「サービス」を選択します。
11. 「SSO アダプタ」を選択します。
12. sunUWCAddressBook の「プロパティの編集 ...」を選択し、プロパティを指定します。
13. 「新規デフォルト」を選択し、port 番号を指定し、「保存」を選択します。

注 ユーザーレベルで SSO アダプタ属性が書き込まれているユーザーが存在している場合は、既存のユーザーは組織レベルの変更点を SSO アダプタ設定に引き継がないので、この解決策は役立たない可能性があります。代わりに、デフォルトプロパティとして定義された「ホスト」とポートによって、SSO アダプタテンプレートを更新することができます。

Microsoft Calendar および Microsoft AddressBook が「コンテンツが使用可能ではありません」エラーをスローする。(6213120)

WebLogic サーバーで Microsoft Calendar チャンネルと Address Book チャンネルを設定する場合には、コンテンツが使用可能ではないことを示すエラーメッセージが表示される場合があります。この問題は、他のファイルが jintegra.jar ファイルよりも優先される場合に発生する可能性があります。

回避策

jintegra.jar ファイルをクラスパスの最初のファイルとして追加します。

Lotus Address Book および Calendar が旧バージョンの NCSO.jar で動作しない (6216069)
Lotus Address Book および Calendar を実行するには、最新バージョンの NCSO.jar が必要です。

回避策

たとえば、Domino 6.5.1 の NCSO.jar など、Domino の最新バージョンを使用します。

Secure Remote Access

Portal Secure Remote Access からカレンダーのリンクにアクセスできない。(#4929710)

デスクトップユーザーが、セキュリティー保護なしのアイテムを表示する設定を選択すると、カレンダーデスクトップが表示されます。ただし、リンクは何も表示されません。デスクトップユーザーが、セキュリティー保護なしのアイテムを表示しない設定を選択すると、カレンダーデスクトップは表示されません。そのため、カレンダーデスクトップのアイテムはゲートウェイを経由して動作しません。

回避策

Calendar Server の ics.conf を編集します。render.xslonclien.enable の行を変更して「yes」にします。

Proxylet のルール編集ページをゲートウェイを介して表示すると、非常に時間がかかる。(6181714)

ゲートウェイを経由して Proxylet のルール編集ページを呼び出すと、応答が非常に遅くなり、Proxylet のルールページを表示する際にしばらく時間がかかります。

回避策

なし

ゲートウェイ

Portal Server のコンポーネントが別々のセッションの場合、ゲートウェイ経由で Portal Server にログインできない。(6214635)

この問題は、Portal Server のコンポーネントが別々のセッションでインストールされている場合に発生します。

回避策

Portal Server のサービスを別々のセッションに追加する場合は、次の条件を必ず満たしてください。

- すべての Portal Server の一覧が、管理コンソールの「ゲートウェイ」>「Core」の下位に表示されている。
- すべての Portal Server の URL の一覧が、「ゲートウェイ」>「セキュリティー」の下位の非認証 URL に表示されている。

Application Server を停止してから起動すると、ユーザーがゲートウェイを経由してログインできない。(6191449)

Portal Server が Sun Java System Application Server を Web コンテナとして使用している場合は、Web コンテナを停止して再起動すると、場合によっては、ユーザーがゲートウェイを経由して Portal Server にログインするのを阻止するエラーが発生します。

回避策

ゲートウェイを停止して再起動します。端末ウィンドウで次のように入力します。

```
net stop SRA.Gateway.instancename  
net start SRA.Gateway.instancename
```

NetFile

NetFile でローカルファイルを開くことができない。(5033644)

ファイルのベースディレクトリが削除されているので、NetFile でローカルファイルを開くことができません。ユーザーがファイルのディレクトリツリーを展開して /tmp/1.txt などのローカルファイルを見つけようとし、ユーザーが「開く」をクリックすると、次のエラーメッセージを表示した警告ポップアップダイアログが開きます。「ファイル /1.txt が見つかりません。場所を確認してもう一度実行してください」。

回避策

なし

Netlet

Netlet で再度ログインした後でロードに失敗する。(2102626)

Netlet がロードされており、デスクトップからログアウトしてもう一度ログインしようとする、Netlet を再起動できなくなります。

回避策

ブラウザを閉じ、新しいブラウザを開いてもう一度ロードしてください。

デフォルトの Microsoft JVM を使用して Netlet をロードするときに、Microsoft Internet Explorer が強制終了する。(2120110)

Netlet がロードされているときには、セキュリティメッセージが表示されます。「はい」をクリックして続行しようすると、Microsoft Internet Explorer が強制終了されます。

回避策

なし

Java 1.4.2 によりブラウザのオプションで pac ファイルが指定されていると、Netlet が動作しない。この問題は、pac ファイルの場所が指定されている形式をプラグインが理解できない場合に発生します。

回避策

pac ファイルの場所の形式は、Java のさまざまなバージョンに合うように指定する必要があります。

Rewriter

Microsoft Exchange 2003 を使用する場合に、gif ファイルが一部のページで欠落する。(6186547)
多数のインタフェースイメージファイルが欠落します。

回避策

なし

iNotes では、「連絡先」タブの下で、ヘルプページが管理コンソールにリダイレクトされる。(6186541)
iNotes の「連絡先」タブの「ヘルプ」ボタンをクリックすると、ヘルプページの代わりに管理コンソールページが表示されます。

回避策

なし

iNotes が正しくログアウトしない。(6186544)
iNotes の「ログアウト」をクリックすると 2 つのオプションが表示されます。どちらのオプションを選択しても、iNotes からログアウトしません。

回避策

なし

Microsoft Exchange 2000 SP3 で警告メッセージおよび「アクションは取り消されました」というメッセージが表示される。(6186535)

Exchange 2000 SP3 の次のアクションにおいて、セキュリティー警告メッセージと「アクションは取り消されました」のメッセージが表示されます。

- 「メール」の下の「新規」タブをクリックする。
- ドロップボックスリストで任意のアイテムを選択する。
- 「カレンダー」の下の「新規」タブをクリックする。
- 空の削除済みアイテムフォルダをクリックする。
- 新規タスクを作成する。

回避策

なし

「アイテムを開く」ボタンのカレンダー通知ページをクリックすると、Microsoft Exchange 2003 がログインページに戻る。(6186528)

回避策

なし

Microsoft Exchange 2000 SP3 を使用していると、特定のフォルダへのメッセージの移動またはコピー機能が働かない。(6186534)

ゲートウェイを経由して Portal Server にログインし、Microsoft Exchange マシンの詳細設定でブックマークチャネルを編集する場合は、Microsoft Exchange インタフェースの「移動」/「コピー」ボタンをクリックすると、「処理が実行されませんでした」エラーメッセージが表示されます。

回避策

なし

Microsoft Exchange 2000 SP3 を使用しているときに、ドロップボックスリストでアイテムを選択すると、「アクションは取り消されました」メッセージが表示される。(6186533)

ゲートウェイを経由して Portal Server にログインし、Microsoft Exchange マシンの詳細設定でブックマークチャネルを編集する場合は、Microsoft Exchange インタフェースのメールおよびカレンダーのドロップダウンリストが機能しません。「アクションは取り消されました」メッセージが表示されます。

回避策

なし

Microsoft Exchange 2000 SP3 を使用しているときに、空の削除済みアイテムフォルダをクリックすると「アクションは取り消されました」メッセージが表示される。(6186540)

ゲートウェイを経由して Portal Server にログインし、Microsoft Exchange マシンの詳細設定でブックマークチャネルを編集する場合は、Microsoft Exchange インタフェースで削除済みアイテムを空にすることはできません。

回避策

なし

ドキュメント

『Sun Java System Portal Server 6 2005Q1 Secure Remote Access 管理ガイド』の第 9 章で、サブセクションのタイトルが間違っている。(バグ ID なし)

「Enable Rewriting of All URLs」サブセクションは「Enable Rewriting of All URIs」とすべきです。

Rewriter ドキュメントでは、http と https のみがサポートされると記載すべき。(5082368)

『Sun Java System Portal Server 6 2005Q1 管理ガイド』の第 12 章「リライターサービスの管理」にある「サポートされる URL」の節では、「Rewriter は RFC-1738 で指定されているすべての標準 URL をサポートします」と述べられています。この情報は正しくありません。Rewriter は HTTP と HTTPS の URL のみをサポートします。

回避策

なし

Mobile Access

ネイティブ JSP デスクトップは、フロントページサイズが最大のデックサイズ (Wm1DeckSize) を超える場合に処理を行わない。http://docs.sun.com/source/817-5323/index.html を参照のこと。(4950078)

回避策

なし

メールが HTML 形式で表示される場合がある。(4938743)

本文に HTML が含まれる電子メールメッセージが送信された場合、HTML 形式で表示されます。

回避策

回避策はありません。ただし、メッセージの元のフォーマットを維持するには、メールアプリケーションの設定をプレーンテキストに変更します。

Netscape でこれを行うには、メールクライアントで次の手順を実行します。

1. メニューの「編集」オプションから「設定」>「Mail & Newsgroups」を選択します。
2. 「Mail & Newsgroups」メニューから「送信形式」をクリックし、「送信形式の設定」を表示します。
3. 「メッセージを標準テキストに変換」オプションを選択して「了解」をクリックします。

Outlook Express クライアントの場合：

1. 「ツール」->「オプション」->「送信」を選択します。
2. 「メール送信の形式」で「HTML」の代わりに「テキスト」を選択します。
3. 「保存」を選択します。

JES インストーラの実行中に Portal Server 設定パネルのドキュメントルートディレクトリに表示されるデフォルト値が間違っている。(6203728)

この問題は、他の依存製品がインストールおよび設定された後に Portal Server を独立してインストールし、Access Manager 以外の別のインスタンスに Portal Server をインストールしている間に発生します。

回避策

Portal Server を配備した Web コンテナが Sun Java Enterprise System Web Server である場合は、JES インストーラの実行中に表示される Portal Server 設定パネルに入力する、ドキュメントルートディレクトリへのパスが正しいことを確認してください。

たとえば、Sun Java Enterprise System Web Server を *C:\Sun\WebServer* にインストールした場合、ドキュメントルートディレクトリは *C:\Sun\WebServer\docs* になります。

モバイルアプリケーションサービスページの「コンテンツ」リンクにより、「不正な要求」メッセージが表示される。(5043783)

不正な要求エラーは、「サービス」オプションのヘルプページの「コンテンツ」リンクをクリックした場合にのみ発生します。これは、Access Manager の管理コンソール>「アイデンティティ管理」タブからヘルプにアクセスする場合に起きます。

回避策

なし

表示：日付を含む場合のルールが機能しない。(6212818)

検索フィルタでの文字列形式 dd/mm/yyyy を使用した日付検索は機能しません。

回避策

IMAP では Wed, 04 Jun 2003 13:06:55 -700 形式で日付を保存しています。この形式を使用する検索フィルタは機能します。

表示名に空白が含まれていると、「表示」リンクが表示されない。(6212854)

「表示」リンクは、表示名がスペースで始まるか終わる場合、デバイスに表示されません。「編集」をクリックすると、NULL ポインタの例外が発生します。

回避策

表示名およびルール名の前後に空白を使用しないでください。

モバイルユーザーとデスクトップユーザーの URL 長を最小化する URL 転送。(5020380)

URL 転送は、デスクトップユーザーと電話ユーザーの URL 長を最小化するために必要になります。

回避策

リダイレクションを使用して、1つのサーバーでドキュメントを要求しているユーザーを、別のサーバーのドキュメントにシームレスに送信できます。たとえば、ユーザーが `http://home.suncom.net` と入力した場合、これには宛先 URI がありません。このプレフィックスは、Web Server 管理コンソールでは次のように解釈および変換されません。

Prefix: /index.html

固定された URL に送信するには、次のように入力します。

```
http://home.suncom.net/amserver/UI/Login?module=MSISDN
```

Web サーバーは、URI が /index.html になっているすべてのポータル URL を、固定された URL に転送します。このエントリがあるかどうかについて、Web サーバーインスタンスの `obj.conf` ファイルを確認します。

```
NameTrans fn="redirect" from="/index.html"  
url-prefix="http://portal.mobile.suncom.net/amserver/UI/Login?module=MSISDN"
```

モバイルメールとアドレス帳の設定についての説明がマニュアルにない。(5011510)

回避策

なし

Cookie 無効モードでの Application Server 7.1 UR1 の使用。(5107310)

回避策

Application Server 7.1 Update Release 1 (UR1) を使用する場合は、ユーザーが Cookie 無効モードを使用する必要があるときは、次の JVM オプションを Application Server 設定に追加します。

```
-DJ2EEDecodeURI
```

日本語を使用するブラウザで、ルールを正しく適用しても、「無効なルール /URL 構文を表示」エラーが発生する。(6190033)

ユーザーがブラウザで日本語を使用してルールを追加すると、「無効なルール /URL 構文を表示」エラーメッセージが表示されます。このエラーは、英語を使用するブラウザでは発生しません。

回避策

なし

サブレットフィルタが設定されていると、Web サーバーが常にコンテンツタイプを `text/html` に設定する。(6174754)

ユーザーが、Sun Java System Web Server に配備されている Access Manager インスタンスによってポータルゲートウェイを配備すると、Web Server はコンテンツタイプを常に `text/html` に設定します。次の回避策は、ゲートウェイバグ 5093084 の原因となっている Web Server バグ 6173293 に対処する際に役立ちます。

回避策

web-server-instance/config ディレクトリの obj.conf ファイルに次のような変更を加えます。

1. ObjectType が次のように設定されています。

```
ObjectType fn=force-type type=text/html
```

次のように変更します。

```
# ObjectType fn=force-type type=text/html
```

2. この変更を行った後で Web Server を再起動します。

palmOne Treo 180 デバイスのクライアントタイプを cHTML に変更する。(6190070)

palmOne Treo 180 モバイルデバイスが Mobile Access にアクセスする場合、コンテンツは WML マークアップ言語を使用してレンダリングされます。Treo 180 は、cHTML 対応のモバイルデバイスです。Treo 180 デバイスは、WML と cHTML に対応していますが、cHTML はよりリッチなマークアップ言語なので cHTML が望ましいタイプです。

回避策

次の手順により、amconsole を使用して cHTML にクライアントタイプを変更できます。

1. ブラウザで `http://hostname:port/amconsole` を開きます。
2. 管理者としてログインします。
3. 「サービス設定」タブ -> 「クライアントディテクション」-> 「クライアントタイプ:編集」(右側のパネル)をクリックします。
「クライアントマネージャ」が表示されます。
4. WML カテゴリを選択して、WML 対応デバイスの一覧を取得します。
5. UPG1_UP_4.0_(compatible __ Blazer_1.0) を編集し、「このデバイスの直接の親」を cHTML に変更します。
6. デバイスの設定を保存し、それからグローバルのクライアント検出設定を保存します。

クライアントタイプの変更方法の詳細については、『Sun™ Java System Portal Server Mobile Access 6.2 管理ガイド』の第 2 章「モバイル機器の管理」にある「クライアントマネージャ」の使用」を参照してください。

モバイルから Anonymous でポータルにログインすると、深刻なデスクトップエラーがスローされる。(6184377)

ユーザーが、XHTML または WML ブラウザ、または WML/XHTML シミュレータを使用してモバイルから匿名ログインで Portal Server にアクセスすると、次のエラーメッセージが表示されます。

「デスクトップで重大なエラーが発生しました。サーバ設定の誤りが原因である可能性があります。この問題を管理者に報告してください。

回避策

なし

メールの「表示」メニューオプションがモバイルデスクトップに表示されない。(6185041)

CC/PP 対応電話を使用する場合は、正しいデバイス名がポータルデスクトップの「モバイルデバイス」セクションに表示されないことがあります。ユーザーは、表示とデバイスを関連付けることができなくなります。ユーザーがデバイスのコンテンツまたはレイアウトをカスタマイズできない場合があります。amconsole を使用し、次の回避策を適用することにより、モバイルデバイスで「ビュー」メニューオプションを有効にすることができます。

回避策

ユーザーは、ユーザーのプロファイルに手動でデバイス名を追加する必要があります。CC/PP 準拠デバイスの正しいデバイス名は、特殊文字が「_」によって置き換えられ、先頭および末尾に「_」文字を使用した CC/PP プロファイルの URL です。たとえば URL が

`http://developer.openwave.com/uaprof/OPWVSDK62.xml` の場合、デバイス名は

`_http__developer.openwave.com_uaprof_OPWVSDK62.xml_` になります。以下の手順は、デバイス名をユーザーのプロファイルに追加する方法を説明しています。

1. ブラウザで `http://hostname:port/amconsole` を開きます。
2. 管理者としてログインします。
3. 「ユーザー」をクリックし -> ユーザーをクリックして -> 「サービス」-> 「ポータルデスクトップ」-> 「編集」-> 「XML の直接編集」をクリックします。
4. `<Collection name="selectedClients">` タグを探し出します。
このタグには、選択したクライアントデバイスすべての一覧があります。
5. 次のタグを追加します。
`<String name="_http__developer.openwave.com_uaprof_OPWVSDK62.xml_" value=""/>`
6. 変更内容を保存します。
7. ユーザーとしてポータルデスクトップにログインします。
8. 新しいモバイルデバイスが呼び出されます。
`_http__developer.openwave.com_uaprof_OPWVSDK62.xml_` と表示されます。
9. 新しいメール表示をこのデバイスに接続します。
10. Openwave 6.2 (xhtml) シミュレータを使用してログインします。
11. 「ビュー」メニューが表示されます。

注 selectedClients コレクションに追加される文字列は、特殊文字が「_」によって置き換えられている CC/PP プロファイルの URL です。サポートする各 CC/PP デバイスで上述の手順を繰り返す必要があります。URL は、HTTP ヘッダー、または C:\¥Sun¥AccessManager¥debug にある CCCPPClientDetector ログファイルのいずれかにあります。

「モバイルメールの設定」で使用可能なオンラインヘルプがない。(6185112)

ユーザーがポータルデスクトップ上で「編集 メール」をクリックし「モバイルメールの設定を編集」リンクにアクセスする場合、「モバイルメールの設定」用のヘルプは表示されません。

回避策

なし

HDML コンテンツをレンダリングするデバイスにおいて、カレンダー、メール、およびアドレス帳の詳細のページで、日本語文字が文字化けする。(6191363)

ユーザーがそれぞれのカレンダー、メール、およびアドレス帳を表示するときに HDML コンテンツを表示すると、日本語ロケールの場合はそのコンテンツが文字化けします。たとえば、ユーザーが次のような操作を行う場合です。

1. モバイルデスクトップにログインする。コンテンツが表示され、日本語の文字も表示されません。
2. カレンダーに移動する。カレンダーページのコンテンツが表示され、日本語の文字も表示されません。
3. カレンダーを表示する。カレンダーイベントの日本語文字が文字化けします。

メールおよびアドレス帳の場合にも同じ問題が生じます。モバイルデスクトップ(トップページ)、およびカレンダー、メール、アドレス帳の主要なページでは問題ありませんが、ユーザーがコンテンツを表示しようとするページで文字化けが生じます。他のタイプのコンテンツではこの問題は発生しません。

回避策

なし

メールとカレンダーのイベントをブラウザから日本語で送信しその後モバイルデバイスで表示する場合と、その逆の動作の場合に、コンテンツが文字化けする。(6191389)

モバイルデバイスから日本語のカレンダーイベントを追加する間はデバイスにイベントが表示されますが、ブラウザで表示すると日本語が文字化けします。また、ユーザーがブラウザから日本語のイベントを追加するときにはブラウザにイベントが表示されますが、モバイルデバイスで表示すると文字化けします。

同様に、ユーザーがブラウザを使用して日本語でメールを送信する場合、モバイルデバイスでメールを表示すると文字化けしています。ユーザーがモバイルデバイスからメールを送信する場合、その電子メールはデバイスに表示されますが、ブラウザで表示すると文字化けします。

回避策

なし

モバイルデスクトップが正しく表示されない (6368308)

モバイルからポータルおよび amserver/UI/Login ページにアクセスする場合、正しく表示されません。

回避策

回避策は、インストールのインストール中に自動設定モードとインストール後に手動で設定モードの両方で可能です。ただし、インストール後に手動で設定をお勧めします。

ma.pl perl スクリプトの保存

次の perl スクリプトをコピーして、ma.pl として保存します。

```
sub copyfiles()
{
    $dname=$_[0];
    opendir(DIRHANDLE, $dname) or warn "couldn't open $dname : $!";
    while ( defined ($filename = readdir(DIRHANDLE)) )
        {
            if($filename =~ /$%.jsp/)
                {
                    $srcfile=$filename;
                    $filename =~ s/$%.jsp//g;
                    $filename .= "_UTF-8.jsp";
                    $cpcmd="copy %"$dname%%$srcfile%" %"$dname%%$filename%" %n";
                    print "$cpcmd";
                    $etst=`$cpcmd`;
                }
        }
}

&copyfiles("config%%auth%%default%%aml");
&copyfiles("config%%auth%%default%%wml");
&copyfiles("config%%auth%%default%%vxml");
&copyfiles("config%%auth%%default%%vxml%%Nuanance");
&copyfiles("config%%auth%%default_de%%aml");
```



```

&copyfiles("config¥¥auth¥¥default_de¥¥wml");
&copyfiles("config¥¥auth¥¥default_fr¥¥aml");
&copyfiles("config¥¥auth¥¥default_fr¥¥wml");
&copyfiles("config¥¥auth¥¥default_ja¥¥aml");
&copyfiles("config¥¥auth¥¥default_ja¥¥wml");
&copyfiles("config¥¥auth¥¥default_es¥¥aml");
&copyfiles("config¥¥auth¥¥default_es¥¥wml");
&copyfiles("config¥¥auth¥¥default_ko¥¥aml");
&copyfiles("config¥¥auth¥¥default_ko¥¥wml");
&copyfiles("config¥¥auth¥¥default_zh¥¥aml");
&copyfiles("config¥¥auth¥¥default_zh¥¥wml");
&copyfiles("config¥¥auth¥¥default_zh_CN¥¥aml");
&copyfiles("config¥¥auth¥¥default_zh_CN¥¥wml");
&copyfiles("config¥¥auth¥¥default_zh_TW¥¥aml");
&copyfiles("config¥¥auth¥¥default_zh_TW¥¥wml");

```

ma-filepath.pl perl スクリプトの保存

次の perl スクリプトをコピーして、ma-filepath.pl として保存します。

```

sub ReplaceFilePath
{
    open (CONF_FD, "<config¥¥ldif¥¥sunAMClient_data.ldif") or
    &fopen_error("config¥¥ldif¥¥sunAMClient_data.ldif",
    "ReadParameterFromConfigFile", __FILE__, __LINE__);
    my(@lines) = <CONF_FD>;
    close (CONF_FD);
    open (TMP_FD, ">config¥¥ldif¥¥sunAMClient_data.ldif.new") or
    &fopen_error("config¥¥ldif¥¥sunAMClient_data.ldif.new",
    "ReadParameterFromConfigFile", __FILE__, __LINE__);
    foreach (@lines)
    {
        chomp;
        $line = $_;
    }
}

```

```
if ($line =~ /vxml¥/Nuance/)
{
$line =~ s/vxml¥/Nuance/vxml¥¥Nuance/g;
}
elseif ($line =~ /aml¥/chtml/)
{
$line =~ s/aml¥/chtml/aml¥¥chtml/g;
}
elseif ($line =~ /aml¥/hdml/)
{
$line =~ s/aml¥/hdml/aml¥¥hdml/g;
}
elseif ($line =~ /aml¥/ihtml/)
{
$line =~ s/aml¥/ihtml/aml¥¥ihtml/g;
}
elseif ($line =~ /aml¥/jhtml/)
{
$line =~ s/aml¥/jhtml/aml¥¥jhtml/g;
}
elseif ($line =~ /wml¥/Nokia/)
{
$line =~ s/wml¥/Nokia/wml¥¥Nokia/g;
}
elseif ($line =~ /aml¥/wml/)
{
$line =~ s/aml¥/wml/aml¥¥wml/g;
}
elseif ($line =~ /aml¥/xhtml/)
{
$line =~ s/aml¥/xhtml/aml¥¥xhtml/g;
```

```

}
print TMP_FD "$line\n";
}
close (TMP_FD);
`del config¥¥ldif¥¥sunAMClient_data.ldif`;
`ren config¥¥ldif¥¥sunAMClient_data.ldif.new sunAMClient_data.ldif`;
}
&ReplaceFilePath();

```

インストール中に自動設定

1. Access Manager のサービス Web モジュールの web.xml を編集します。filter タグは、コメントアウトされます。コメントを外します。

Web Server がコンテナの場合は、次のようにします。

```
<webserver-installldir>¥<instancedir>¥is-web-apps¥services¥WEB-INF¥web.xml
```

Application Server がコンテナの場合は、次のようにします。

```
<appserver-installldir>¥domains¥<domain-name>¥applications¥j2ee-modules¥amserver¥WEB-INF¥web.xml
```

例

置換前

```

<! --      <filter>
<filter-name>amlcontroler</filter-name>
<filter-class>com.sun.mobile.filter.AMLController</filter-class>
</filter>
<filter-mapping>
<filter-name>amlcontroler</filter-name>
<url-pattern>/*</url-pattern>
</filter-mapping>-->

```

置換後

```

<filter>
<filter-name>amlFilter</filter-name>
<filter-class>com.sun.mobile.filter.AMLController</filter-class>
</filter>
<filter-mapping>

```

```
<filter-name>amlFilter</filter-name>  
<url-pattern>/*</url-pattern>  
</filter-mapping>
```

2. 次のディレクトリで ma.pl を実行します。

Web Server がコンテナの場合は、次のようにします。

```
<webserver-installdir>%<instancedir>%is-web-apps%services%
```

Application Server がコンテナの場合は、次のようにします。

```
<appserver-installdir>%domains%<domain-name>%applications%j2ee-modules%amserver%
```

3. Web コンテナを再起動します。
4. amconsole でクライアントのファイルパスを変更します。
 - a. 「amconsole」-> 「サービス設定」-> 「クライアントディテクション」に移動します。
 - b. 編集リンクを選択します。
 - c. クライアントを選択して、編集します。
 - d. 「テンプレートのファイルパス」で / を % に置き換えます。
 - e. 保存します。

インストール後に手動で設定

1. Access Manager を設定する前に、<am-installdir> ディレクトリで ma-filepath.pl を実行します。

例、C:%Sun%AccessManager

2. Access Manager を設定します。
3. Portal Server を設定します。
4. Access Manager のサービス Web モジュールの web.xml を編集します。filter タグは、コメントアウトされます。コメントを外します。

Web Server がコンテナの場合は、次のようにします。

```
<webserver-installdir>%<instancedir>%is-web-apps%services%WEB-INF%web.xml
```

Application Server がコンテナの場合は、次のようにします。

```
<appserver-installdir>%domains%<domain-name>%applications%j2ee-modules%amserver%WEB-INF%web.xml
```

例

置換前

```
<! --          <filter>
```

```

<filter-name>amlcontroler</filter-name>
<filter-class>com.sun.mobile.filter.AMLController</filter-class>
</filter>
<filter-mapping>
<filter-name>amlcontroler</filter-name>
<url-pattern>/*</url-pattern>
</filter-mapping>-->

```

置換後

```

<filter>
<filter-name>amlFilter</filter-name>
<filter-class>com.sun.mobile.filter.AMLController</filter-class>
</filter>
<filter-mapping>
<filter-name>amlFilter</filter-name>
<url-pattern>/*</url-pattern>
</filter-mapping>

```

5. 次のディレクトリで `ma.pl` を実行します。

Web Server がコンテナの場合は、次のようにします。

```
<webserver-installdir>%<instancedir>%is-web-apps%services%
```

Application Server がコンテナの場合は、次のようにします。

```
<appserver-installdir>%domains%<domain-name>%applications%j2ee-modules%amserver%
```

6. コンテナを再起動します。

Mobile Access で Cookie less モードが機能しない

Cookie less モードでログインページにアクセスしようとしても、できません。

回避策

なし

ローカライズ

カレンダーの日付と時刻が、ロケールに従って表示されない。(4971337)

ポータルデスクトップでは、正しいロケール形式で日付と時刻が表示されません。たとえば、韓国語のロケールパッケージがインストールされている場合、カレンダーの日付と時刻の形式は韓国語で表示されません。この問題は、Mobile Access Pack のローカライズされたインストールすべてにおいて発生しません。

回避策

なし

カレンダータスクの通知時間を変更できない。(5031431)

カレンダーにタスクを追加し、通知時間を 15 分に設定します。変更するときにタスクの通知時間が 1 分と表示されますが、Calendar Express では 15 分と表示されます。

回避策

なし

NetFile の日付がサーバーのロケールに依存する。(5026281)

日付の形式は、サーバーのロケールではなく、ユーザーのロケールに依存します。

回避策

なし

中国語の添付テキストファイルを Netmail に正しく保存できない。(5031446)

Netmail を使用して中国語文字を含むテキストファイルを添付する場合、そのファイルを Netmail で受信するユーザーは、ファイルを正しく保存できません。ファイルの文字は文字化けします。

回避策

なし

ファイル名がマルチバイトのファイル名になっているマルチバイトファイルを解凍すると、ファイル名が文字化けする。(5033641)

マルチバイトファイル名のマルチバイトファイルを解凍すると、ファイル名が文字化けします。

回避策

なし

アドレス帳エントリの名前の順序が日本語ユーザーにとって違和感がある。(6197714)

アドレス帳チャンネルおよびマップアドレス帳は、名を表示して姓を表示します。本来は、姓を表示して次に名を表示するものです。

回避策

なし

Netmail Lite を使用して日本語のメールを送信する場合、メッセージの最後にクエスチョンマークまたは意味のない文字が表示される。

回避策

なし

de_DE ロケールを使用するとき、詳細検索ページが正しく表示されない。(6208359)

「検索」タブをクリックすると詳細検索ページが表示されますが、ページが部分的に欠落しています。

回避策

なし

管理コンソールの Secure Remote Access の下にある Proxylet の設定ページがローカライズされていない。(6208800)

回避策

なし

Instant Messaging チャンネルの編集ページがエラーページを表示する。(6210507)

Instant Messaging チャンネルの編集ボタンをクリックすると、エラーページが表示されます。

回避策

ユーザーロケールを英語に変更してから、Instant Messaging チャンネルを編集します。

NetFile のマルチバイトファイル名を NFS サーバーの共有フォルダの下に表示できない。(6193843)

英語以外のユーザーは、マルチバイト文字のファイル名の場合、Portal Server デスクトップから NFS サーバーの共有フォルダにある NetFile ファイルにアクセスできません。

回避策

なし

マルチバイト名のチャンネルの「編集」ボタンをクリックすると、空白ページが表示される。(6193860)

回避策

なし

ノートチャンネルに投稿できない。(6193889)

ポータルデスクトップユーザーは、チャンネルを編集できないので、Notes チャンネルでノートを投稿できません。

回避策

dp-providers.xml ファイルの NoteProvider の表示プロファイルフラグメントを以下の太字行のように変更します。

```
<Provider name="NotesProvider" class="com.sun.portal.providers.notes.NotesProvider">  
<Boolean name="isEditable" value="true" advanced="true"/>
```

日本語ユーザーのカレンダーチャネルの時刻形式に誤りがある。(6196579)

日本語ユーザーの場合、カレンダーチャネルの時刻形式は PM: HH:MM - AM: HH:MM です。

回避策

なし

ユーザーが Netlet の警告ダイアログボックスをキャンセルできない。(2112878)

ローカライズされた Portal Server の設定で、Portal Server デスクトップのユーザーが Netlet から FTP または Telnet サービスにアクセスしようとする、Netlet に「了解」と「取消し」のオプションを配置した警告ダイアログボックスが表示されます。ユーザーが「取消し」をクリックすると、ダイアログがハングします。

回避策

なし

JDK のバージョンによっては、Instant Messenger を Java Web Start で起動できない。(6199908)

この問題は、J2SE 1.5.0 がインストールされている Windows マシンの Portal Server デスクトップにアクセスしようとするときに発生します。

回避策

なし

NetFile Java1 を使用してメールを送信できない。(4910252)

ファイルパスまたはファイル名にマルチバイト文字が含まれている場合、NetFile Java1 から「メール」ボタンを使用してファイルを送信することはできません。

ファイルは、NetFile Java2 を使用してメールできます。

回避策

なし

Netmail オンラインヘルプで指定されている日付形式に誤りがある。(4920181)

Netmail オンラインヘルプでは、メールを検索する場合の日付形式を mm-dd-yy にしています。この形式は多くのロケールでは正しくありません。

回避策

メールを検索する場合の日付形式は、ユーザーのロケールによって異なります。たとえば、日本語ロケールの場合、ユーザーは次の日付形式を使用してください。

yyyy/mm/dd

いくつかのヨーロッパ (EMEA) ロケールに対してカレンダーチャンネルで使用される日付形式に誤りがある。(5033728)

使用されている日付形式は、月、日、年です。日付形式は、日、月、年にしてください。

回避策

なし

カレンダーチャンネルのイベントで、ヨーロッパロケールに対して誤った時刻形式が使用されている。(5033735) カレンダーチャンネルに表示されるイベントで、誤った時刻形式 (12 時間形式) が使用されています。カレンダーサーバーで設定されているとおり、24 時間形式を使用してください。

回避策

なし

Netmail の検索アプリケーションの韓国語バージョンが、すべてのメッセージの場所を正しく検出しません。(5036419)

「この日付より前」 / 「この日付」 オプションは、値に一致するメッセージを強調表示しません。「この日付より後」 / 「この日付」 オプションは、値に一致するメッセージを強調表示します。

回避策

なし

簡体字中国語ユーザーの場合、ユーザー情報チャンネルの編集ページのデフォルト言語が英語になっている。(5036625)

ロケール XML ファイルは、zh ではなく、en に設定されています。

回避策

なし

匿名デスクトップ (/portal/dt) が、ブラウザに設定されている優先言語に従って表示されない。(5059646)

匿名デスクトップに初めてアクセスするときには、ブラウザに指定されている優先言語に従って表示されます。ブラウザで優先言語が変更され、ページが更新されると、デスクトップのコンテンツの一部だけがブラウザのロケールで表示されます。

回避策

なし

言語を選択すると、言語環境の設定に時間がかかる。(5074720)

Portal Server ソフトウェアの設定では、言語ごとに数分の時間が必要になります。それぞれの言語では多くの XML ファイルを使用しており、それぞれのファイルで `dpadmin` が呼び出されます。

回避策

なし

Portal Server Mobile Access の言語用の認証 JSP が Access Manager に配備されない。(6191601)

JSP は、AccessManager/mobile_auth_jsps.jar に入れて配信されるので、AccessManager/web-src/services に `unjar` する必要があります。AccessManager/amserver.war を再作成し、Web コンテナに再配備する必要もあります。

回避策

なし

Portal Server がスペイン語ロケールを配備しない場合がある。(6214289)

Portal Server は、テキストベースのインタフェースを使用してインストールされている場合、Sun Java System Web Server によって配備されたときに起動しないことがあります。

回避策

なし

日本語ロケールの場合に、NetFile が Windows 2000 共有フォルダ名を正しく表示しない。(6215099)

フォルダ名は、日本語ロケールの場合にのみ文字化けして表示されます。

回避策

なし

中国語ロケールで新しいユーザーを登録できない(6358271)

回避策

登録に Mozilla ブラウザを使用します。

Sun Java Enterprise System Release 4 の既知の問題と制限

リモート Access Manager を使用した Portal Server の配備が機能しない。(6284663)

リモート Access Manager を使用した Portal Server の配備はこのベータリリースで機能しません。修正プログラムは開発中で、リリースの最終バージョンではこの設定をサポートする予定です。この項目に関する詳細は、最終製品のリリースノートを参照してください。

Linux のベータバージョンでは、Portal Server がインストールされているホストと Access Manager および Directory Server がインストールされているホストが異なる設定で Portal Server を配備できません。

回避策はあります。ただし、複雑で、正しく実装するのが難しいため、お勧めしません。この設定がベータ評価にどうしても必要な場合のために、Sun は情報のみを目的として回避策を公表しています。回避策は次のとおりです。

回避策

1. 今すぐ設定モードで Java Enterprise System インストーラを使用して Access Manager と Directory Server をホストにインストールします。
2. あとで設定モードで Java Enterprise System インストーラを使用して Access Manager SDK を別のホストにインストールします。
3. ベータを評価する特定の設定のために `amsamplesilent` ファイルに適切なデータを指定した後、`DEPLOY_LEVEL=4` に設定した `amconfig` スクリプトを使用して Access Manager を設定します。
4. ベータを評価する特定の設定のために `psamplesilent` ファイルに適切なデータを指定した後、`psconfig` スクリプトを使用して Portal Server を設定します。

詳細は、『Sun Java Enterprise System 2005Q4 インストールガイド』の「リモートの Access Manager を使用する Portal Server の例」を参照してください。

モバイルデバイスで、「Access Manager 認証」ページが使用できない。(6264551)

モバイルデバイスユーザーは、「`amserver/UI/Login`」 URL を使用してモバイルデスクトップにログインできません。

回避策

なし

ユーザーが SDK によって作成された場合、Access Manager に登録された Portal Server サービスがユーザーに追加されない (6280171)

Access Manager SDK を使用する Delegated Administrator ユーティリティ、`commadmin` を使用して作成されたユーザーには、Portal Server へのログインに必要なデフォルトサービスがありません。

回避策

commadmin ユーティリティを使用して作成された各ユーザーに対して、Access Manager 管理コンソールを使用してそのユーザーに足りないサービスを登録する必要があります。

また、**amadmin** ユーティリティまたは **ldapmodify** ユーティリティを使用して登録されたサービスを追加することもできます。ユーザー数が多数の場合は、ユーザーを追加するスクリプトの作成を検討してください。

通信チャンネルのパスワードフィールドに、チャンネルが設定される前の値が含まれている。(6280707)

回避策

なし

ゲートウェイを経由して UWC カレンダが表示されない。(6218353)

「カレンダーを起動」リンクをクリックすると、エラーメッセージが表示されます。

回避策

ゲートウェイと併用する UWC のゲートウェイで次の手順を実行します。

1. 管理コンソールにログインし、「サービス管理」の下のゲートウェイプロファイルをクリックします。
2. 「コア」タブの下の「Cookie 管理」を有効にします。
3. カレンダ、Messaging、および UWC URL をポート番号とともに、「ユーザセッション Cookie を転送する URL」のリストボックスに追加します。
4. 「リライタ」タブで、すべての URL の書き換えを有効にします。
5. ゲートウェイを再起動します。

プロキシ認証が有効な場合に、「アドレス帳を起動」リンクが表示されない。(2126154)

デフォルトで、UWC が有効な場合、Messenger Express によって cookie 「webmailsid」が使用されます。「ポータルアドレス帳」チャンネルの「アドレス帳を起動」が表示されません。このバグを回避するには、適切なオプションを設定する必要があります。

回避策

次のいずれかの回避策に従います。

- UWC がインストールされている場合は、Messaging Server の `local.webmail.sso.uwcenabled` オプションが「1」に設定されています。この値は、Messenger Express が cookie を使用することを示します。設定ツールで `local.webmail.sso.uwcenabled` オプションを「0」に設定します。
- `local.service.http.cookieName` オプションが空白のままか、設定されていないかを確認します。

Proxylet のルールウィンドウを起動すると、エラーメッセージが表示される。(6285755)

Access Manager コンソールの Proxylet のルールウィンドウを起動すると、エラーメッセージが表示されます。このエラーは、BEA WebLogic Web コンテナでのみ発生します。

回避策

なし

ゲートウェイを経由してログインページとログアウトページが正しく表示されない。(6285748)

ゲートウェイを経由して Access Manager コンソールのログインページとログアウトページにアクセスすると、フォントサイズ、ページのレイアウト、フレームの幅が変わります。

回避策

なし

再配布可能ファイル

Sun Java System Portal Server 6 2005Q4 には再配布可能なファイルは含まれていません。

問題の報告とフィードバックの方法

Sun Java System Portal Server で問題が発生した場合は、次のいずれかの方法でカスタマーサポートにお問い合わせください。

- 次の Web サイトで Sun ソフトウェアサポートサービスをご利用ください。
<http://www.sun.com/service/sunone/software>

このサイトには、保守プログラムやサポート連絡先の電話番号へのリンクに加え、ナレッジベース、オンラインサポートセンター、および Product Tracker へのリンクがあります。

- 保守契約を結んでいるお客様は、専用ダイヤルをご利用ください。

サポートのご依頼の前に、次の情報を用意してください。問題を解決するための最善のサポートを提供させて頂くために必要な情報です。

- 問題が発生した状況や動作への影響など、問題の具体的な説明
- マシン機種、OS バージョン、および問題の原因と思われるパッチやその他のソフトウェアの製品バージョン
- 問題を再現するための具体的な手順
- エラーログやコアダンプ

問題が、クライアントに関連していると考えられる場合は、次の情報を用意してください。

- 新しいクライアントタイプ
- デフォルトのクライアントタイプから変更した設定と、変更した方法
- エラーまたは例外の内容。Solaris プラットフォームの場合は、`/var/opt/SUNWam/debug/render.debug` ファイルまたは `/var/opt/SUNWam/debug/MAPFilterConfig` ファイルに報告されています。HP-UX プラットフォームの場合は、`/var/opt/Sun/identity/debug/MAPFilterConfig` に報告されています。Windows プラットフォームの場合は、`[INSTALLDIR]¥AccessManager¥debug` に報告されていません。
- `taglibs` ログファイル `¥var¥opt¥SUNWam¥debug¥mapJsp` に報告されている例外の内容

Sun ではお客様のご意見をお待ちしております。

サンマイクロシステムズはマニュアルの品質向上のため、皆様からのご意見、ご感想をお待ちしております。Sun へのフィードバックには、次の URL にある Web ベースのフォームを使用してください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

完全なドキュメントのタイトルと Part No. を該当するフィールドに記入してください。Part No. は、7 桁または 9 桁の番号で、マニュアルのタイトルページまたはドキュメントの先頭に記載されています。たとえば、このリリースノートの Part No. は、819-5868 です。

追加情報

次のインターネットのサイトで、Sun Java System の情報を参照できます。

- Sun Java System のドキュメント
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/entsys.05q4#hic>
- Sun Java System プロフェッショナルサービス
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>
- Sun Java System ソフトウェア製品およびサービス
<http://www.sun.com/software>
- Sun Java System ソフトウェアサポートサービス
<http://www.sun.com/service/sunone/software>
- Sun Java System サポートおよびナレッジベース
<http://www.sun.com/service/support/software>
- Sun サポートおよびトレーニングサービス
<http://training.sun.com>
- Sun Java System コンサルティングおよびプロフェッショナルサービス
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>
- Sun 開発者用の情報
<http://developers.sun.com>
- Sun 開発者サポートサービス
<http://www.sun.com/developers/support>
- Sun ソフトウェアデータシート
<http://wwws.sun.com/software>

Copyright © 2006 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

本書で説明する製品で使用されている技術に関連した知的所有権は、Sun Microsystems, Inc. に帰属します。特に、制限を受けることなく、この知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> の一覧に示される米国特許、および米国をはじめとする他の国々で取得された、または申請中の特許などが含まれています。

SUN PROPRIETARY/CONFIDENTIAL.

U.S. Government Rights - Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

ご使用はライセンス条項に従ってください。

本製品には、サードパーティーが開発した技術が含まれている場合があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいて開発されている場合があります。

Sun、Sun Microsystems、Sun ロゴ、Java、および Solaris は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用されている、米国および他の国々における同社の商標または登録商標です。